

JAHIS

会誌

2024.2 **72** 号



目次

巻頭言	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 副会長	先崎 心智	2
JAHISひろば	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 院長 国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科 名誉教授／招へい教授	松村 泰志	4
特集／トピックス	2024年 JAHIS講演会&賀詞交換会	総務会	10
部会から	第43回 医療情報学連合大会 HELICSチュートリアル報告 ～「JAHISにおける標準化への取り組み」の紹介～	田中 利夫	16
	医療保険訪問看護におけるオンライン資格確認及び オンライン請求について	石川 竜太 高橋 和彦 今村 将訓	20
	「JAHIS ePath 実装ガイド Ver1.0」の策定にあたって	根来 亮介	26
	2023年 女性活躍セミナー実施について	辻 雅美	29
	第4期特定健診・特定保健指導 見直しの概要について	井上 裕之	34
運営状況報告	運営会議議事録／委員派遣ならびに協賛・後援		37
事務局 総務部 からのお知らせ	年度末に向けて、活動していない会員アカウントの削除をお願いします 他		45
新規会員紹介	Wizards株式会社／株式会社オプテージ／ヨーヨーダイন株式会社		48
事務局新人紹介	事務局 保健福祉システム部長	丸山 裕之	50
	事務局 医療システム部長	大橋 正	52
編集後記			53

ご挨拶



一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会
副会長

せんざき むねのり

先崎 心智

(日本アイ・ビー・エム(株))
IBMコンサルティング事業本部
ヘルスケア・ライフサイエンス
サービス
理事・パートナー

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。能登半島地震で苦難を経験された皆様、及びその関係者の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。安全な日々の回復と迅速な復興を、切に願っております。

2023年は、生成AIが飛躍的に拡がり、テクノロジーの広大な可能性が社会に認知されました。同時に、国際的な不確実性や労働力の減少といった懸念がありつつも、デフレーションからの脱却への期待感が高まっています。2024年は、これらの期待に応えるために、テクノロジーを駆使した革新的な取り組みが特に求められる節目の年です。

2024年4月からは、医師の働き方改革が新たな段階に入ります。これまで医師の長時間労働に支えられてきた日本の医療においては、変わりゆく医療ニーズ、技術の進歩、医療従事者の減少に直面する中、医療の質と患者の安全を確保することが、医療提供の持続性において極めて肝要です。この点において、IT・デジタル技術の役割は一層重要になっています。

また、医療DX推進の工程表によれば、健康保険証の廃止、電子処方箋の展開、電子カルテ情報共有サービス（仮称）の構築、標準型電子カルテα版の開発着手など、2024年は医療デジタル化にとって決定的な年とされています。これらのイニシアティブは、サイバーセキュリティを確保しつつ、医療DXを実現し、保健・医療・介護の情報を有効に活用していくことにより、より良質な医療やケアを受けることを可能にし、国民一人ひとりが安心して、健康で豊かな生活を送れるようになることを目的としています。こうした目標に向けては、既存の枠組みを超え、官民が一丸となって取り組むことが不可欠です。

経済の面では、30年ぶりの高水準となる賃上げ、記録的な名目100兆円の設備投資、50兆円ものGDPギャップの解消の進展など、日本は大転換の機会を迎えています。人口減少と高齢化が進む中、IT・デジタル技術の積極的な活用は、社会経済活動を支える不可欠な要素です。また、社会の包摂性

を高めるための少子化対策、認知症ケア、教育のデジタル化といった取り組みも強化されていきます。

昨年のG7広島サミットに続き、「広島AIプロセス」は、安全で信頼性の高いAI技術の普及に向けた国際的な取り組みを加速しています。安全、安心、信頼できるAIの実現に向けて、AIライフサイクル全体の関係者それぞれが異なる責任を持つという認識の下、12項目の国際指針が整理され、気候変動、健康、教育といったグローバルな課題へのAIの応用が期待されています。

このような状況の中で、保健・医療・福祉の情報システム業界として、信頼されるITの提供とテクノロジーを駆使した革新に向けて、一層の努力を重ねる必要があります。こうして、より良い社会インフラの構築と持続可能な進歩を目指していきます。

皆様の変わらぬ支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。新たな年が、皆様にとって健やかで幸福に満ち、成功の多いものとなりますようお願いしております。共に未来を築き、革新を進めていきましょう。

社長職を経験して

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 院長
国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科 名誉教授／招へい教授

まつむら やすし
松村 泰志



JAHISの会員の皆様からの多大なご支援を頂き、第43回医療情報学連合大会を終えました。久々のコロナ禍を意識せずに参加できる大会で、多くの方に会場にお越しいただき活気ある大会になりました。大会には3682人に参加頂き過去最高とのことでした。応援いただいた皆様に感謝申し上げます。

大会長を勤めて、私の知名度がずいぶんと上がったような気がします。それは、私が開会の挨拶をしたとか、大会長講演をしたとかではなく、等身大の顔出しパネルが人気だったことによります。会場を歩いていると、「あ！本ものがいた。いっしょに写真を撮って」と言われることが良くありました。ちょっとしたタレント（マスコット？）気分でした。

さて、大会長をしたことをきっかけにJAHIS会報誌に記事を書く機会を頂きました。過去の記事には、良い趣味のご紹介や、ほっこりするエッセイ等が書かれています。しかし、私には趣味がなく、皆さんに興味を持ってもらえるようなネタが思いつきません。私は、どちらかというと保守的な性格ですが、私が生きてきた人生は、医師、教育者、研究者、プロジェクトリーダー、社長、病院長と様々な立場を経験し、ユニークなものとなりました。それぞれの立場で波乱万丈の経験をしてきました（現在もその最中ですが）。それぞれの立場には、良いことも辛いこともありましたが、総合的に見れば、どの立場も良いことが上回り、楽しく仕事をさせてもらいました。こうした経験をお話しすれば少し興味を持ってもらえるかと思いましたが、全てを回想録的に紹介すると長くなりますので、皆さんが、あれっ？と思われたであろう「社長」の部分を切り出してご紹介したいと思います。



図1 第43回医療情報学連合大会の顔出しパネル

なぜ私が社長になったのか

私は阪大病院で病院情報システムの導入の仕事を担当していました。1996年頃、厚生省から企業と大学が組んで電子カルテを開発するよう指示があり、NECの担当者と私でこのプロジェクトを進めることになりました。私はそれまでの臨床の経験から、電子カルテで入力したデータを臨床研究で使え

るようにしたいとの思いがありました。通常では医師はフリーテキストで入力することになりますが、それでは入力データが臨床研究に使えないと思い、入力テンプレートを開発することを提案しました。シンプルな形のテンプレートでは医療上の複雑な内容は記録しにくいことから、入力値により次の項目が変化する階層構造を持ち、入力データを変換して自然な表現で出力することを特徴とするテンプレートを考案し、NECさんが苦勞して作ってくれました。この入力ツールにダイナミックテンプレートと名前を付けました。マスターはXMLで記述し、ユーザがマスターを作成できるようにしました。阪大病院のシステム更新のタイミングであった2000年に、NECさんの最初の電子カルテを開発することになりましたが、これにダイナミックテンプレートを組み込んでもらいました。この電子カルテが後にMegaOakと名付けられ、市場に展開されていきました。さっそくマスターを作って、テンプレートを使えるようにしようと取り組んだのですが、機能を凝った分、マスターの作成が難しいことに気づきました。特に自然言語変換部分のマスター設定はノウハウが必要で大変でした。当初は各病院でテンプレートマスター（以下コンテンツと呼びます）を作ってもらうつもりでいたのですが、コンテンツ作成の負担が大きいために、このシステムは使われないのではないかと心配になりました。そこでNECさんに、コンテンツを作るサービスができないかをお願いしたのですが、NECには医療者がいないので医療者が使う言葉を編集する仕事は受けられないとおっしゃり、阪大病院でやってもらえないかと逆に頼まれてしまいました。しかし、阪大病院は阪大病院で利用するテンプレートは作れても、他院のテンプレートを、依頼を受けて作るサービスはできません。どうしたものか考えたあげく、これを業とする会社を立ち上げることとしました。当時、Kさんが大学院をまもなく卒業するところでしたが、Kさんには阪大医療情報部に残って欲しかったもののポストがなく困っていました。そこで、この会社の社長になって生活費を稼いでもらうことを考えました。会社の名前をMKS（Medical Knowledge Sharing）とし、有限会社として立ち上げました。MegaOakが導入される病院から発注を受け、テンプレートのコンテンツ作りを担当させてもらいました。その他、家内の友人で主婦だけでもコンピュータ操作が得意な人、勤めている会社の業績が悪く心配されていた人にそれぞれ声をかけ、非常勤職員として勤めてもらうことになりました。その後正社員になって頂き、今でも勤めてくれています。

病院からの依頼数は当初予想していた数より遥かに多く、やはりニーズがあることを確信しました。コンテンツ作成言語のようなものを作って効率良くコンテンツを作成するなどして、ある程度流れができつつあった頃、社長のKさんに、有名な企業から声がかかってしまいました。MKSとしては辛いものの、そちらの方が遥かに良い給料を安定してもらえることから、快く送り出しました。そうなるの後任の社長を探さなければなりません。いろいろ声をかけ紆余曲折があり、私の知人で建設業の社長をしているTさんが兼務で受けてくれることになりました。Tさんは事業家なので、新規事業の立ち上げには慣れていた様子で、株式会社にしようとして株主に声をかけ資本金を集め、銀行から人をリクルートして経理を担当させるなど、本格的に事業を始められました。ところが、それほどには売上は上がらず、1年で資本金を使い果たし、Tさんは社長を辞めると宣言されてしまいました。ただでも一般の人からは理解しにくい事業内容で、しかも負債を抱えている会社の社長を引き受けてくれる人はいません。困りはて、大学に相談したところ、大学研究者が発案したことを事業化する会社は大学発ベン

チャーとなり、教職員の立場であっても社長を兼務することが許されると聞きました。かくなる上は、それしかないと腹をくくって、私自身が社長を務めることにしました。

黎明期

この状態から会社を立ち上げるのは大変でした。私を信用して株を引き受けると言ってくれた人がおり、紙切れとなった株券を元の値段で買い取ってくれ、当初の株主には迷惑を掛けずに済みました。銀行からリクルートしてきた人に、会社で借金をしてある程度の手当てを出して辞めてもらい、小さなアパートの一室を借りて会社をそちらに移しました。

営業で阪大病院を担当してくれていたYさんが、奥さんの健康上の事情で出張に行けなくなり、会社を辞めて独立すると挨拶に来られました。それならMKSの事業を手伝ってくれないかと声をかけたところ、引き受けてくれました。Yさんは、NECさんとの契約手続きを整備してくれ、双方に手間をかけずに発注できる仕組みにしてくれました。これにより安定的に発注があり、徐々に経営的には立ち直って行きました。

阪大医療情報学教室に修士の大学院に来てくれていたTDさんは、卒業後は医療システムも手掛ける大手企業に勤めていたのですが、お父さんが亡くなられ、お父さんの鍼灸院を継がないといけなどの事情で会社を辞めたと挨拶に来てくれました。鍼灸院の免許さえとれば、鍼灸院は従業員で維持してくれるとのことでしたので、それならばMKSに来てくれないかと頼み来てもらうことになりました。

Mさんは、医療情報に熱心な人で、医療情報学教室で毎週開いていた医療情報学の勉強会に参加してくれていました。Mさんは、医療法人で医療情報担当者として勤めていたのですが、発展的な仕事ではないとのことでMKSに転職したいと言ってくれ、来てもらうことになりました。

家内の友人の娘さんが、医療職の学校に行っていたけれどもその職に就くことに魅力を感じなかったようで、MKSで働きたいと言ってくれました。これらの正社員以外に、様々なつてを使って非常勤で働いてもらえそうな人に声をかけ、働き手を集めました。MKSでは早くからリモートでの勤務を導入しており、家庭の主婦をしながら、合間の時間に在宅で仕事をしてもらうことも可能としました。社員が増えたので、私の自宅の隣の家を購入して新しい社屋にしました。コンテンツの作業工程をシステムで管理することで効率化させ、最終段階で二重でチェックをして納品する流れを作りました。現在では500以上の病院にテンプレートコンテンツを納品し、これまで15万以上のコンテンツを作ってきました。

発展期

当初は、コンテンツ作成作業のみでしたが、利用者からの様々な要望を聞いて、テンプレートのプログラムをバージョンアップしなければならないと感じていました。これをNECのSEさんにお願



図2 MKSの社屋の外観

るとなると、東京大阪間の行き来だけでも大変です。「MKSでテンプレートプログラムが作れないのか」と考えるようになりました。そうした折、私の中学高校時代の親友のHさんから連絡がありました。学生時代にHさんとは同じ数学の塾に通っていました。この塾長の先生が面白い教育をしていました。数学の問題を出されるのですが、それに何通りもの解答法を考えなさいと言われるのです。エレガントな解答法で答えると皆の前で褒めてもらえました。私もHさんも、何とかエレガントな解答法を考えようと、学校が休みの時にもいっしょに問題を解

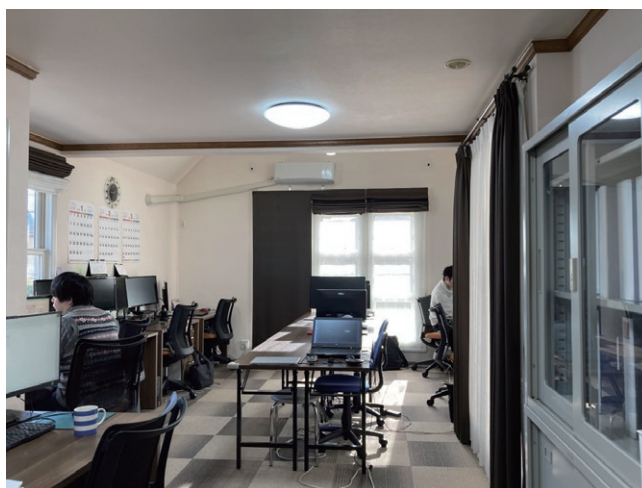


図3 部屋の様子

いていました。ちなみに私はバスケット部、Hさんはテニス部に所属してスポーツも楽しみ、数学だけをしていたのではありません。今から思うと、別の解決法を考える力を養成するこの教育はとても良かったと思います。Hさんは外資系の大企業に勤めていたのですが、その企業の業績が落ちたために早期退職者を募ることとなり、肩たたきに合ってしまったというのです。Hさんはその企業でプログラムを開発する仕事をしていました。Hさんが相談に来てくれた時、MKSの事業を説明し、「こんなプログラムを作りたいのだけど」と聞いてみると、「こんな感じでいいのか」と直ぐに作ってくれました。「そうそう」と言いながら、全体の機能要件を伝え、「それぐらいのことであればやれそうだ」と言ってくれました。それであればMKSの社員になって欲しいと頼み、来てくれることになりました。Hさんにダイナミックテンプレートのバージョン2を開発してもらい、これをNECさんに提供し、組み込んでテンプレートシステムを構成することとしました。

そもそもテンプレートを開発したのは、電子カルテのデータを臨床研究でも利用できるようにするためでした。しかし、テンプレートが使われるようになったものの、臨床研究には繋がっていませんでした。臨床研究は多施設で行うのが通常ですから、テンプレートを利用した多施設共同研究を直接的に支援するシステムを開発することにしました。テンプレートプログラムが手元にありますので、Hさんとテンプレートをベースにシステムを開発していきました。難題に直面すると、二人で考えられる解決法を出し合い最適な方法がどれかを議論していました。こうしてできたシステムにCDCS (Clinical Data Collection System) ととりあえず名前を付け、そのうちに名前を考えようと言っている内にそのままとなってしまいました。

未来に向けて

YJさんは、病院情報システムを担う会社の社員でしたが、電子カルテを開発したいと言う法人に誘われて転職したものの、そのような機会は与えられないとの悩みを聞きましたので、勧誘したところMKSに来てくれることになりました。現在の若手のホープです。

Hさんは私と同級生で、もうそこそこの年齢ですから、いつまでも依存している訳にはいきません。

そこで、後任のプログラマーを探し求めました。Nさんは、企業に勤めるSEだったのですが、独立して、請け負いでプログラム開発の仕事をしていました。ある大手からの発注が多く忙しくされていたのですが、そのプロジェクトが一段落した時を狙って勧誘したところ、MKSの社員になることに応じてもらえました。最初はHさんのプログラムを引き継ぎ発展させることを考えていたのですが、そのような仕事はプログラマーにとっては苦痛だということが分かりました。他人が作ったプログラムを理解するのは骨が折れる上、手を加えてどこに影響があるかが分からないからです。そこでNさんには、バージョン2の問題点を解決したバージョン3のシステムを一から開発してもらうことにしました。バージョン2のシステムは、PC上のWindowsで動くことを想定し、テンプレートのコア部分をdllで提供するものでした。しかし、スマートフォンやタブレットが登場し、その上でも動くものを作るニーズがありました。そこで、バージョン3はWebベースのシステムとして、PCでも携帯端末上でも動くようにしました。また、バージョン2では、アプリケーション側にマスターや患者データを保存するデータベースを設定してもらう必要があるなど、テンプレートの組み込みにかなりハードルが高かったところを、バージョン3ではテンプレートに関わるデータベースも含めてDockerとして提供し、WebAPIとSDKを用意して、アプリケーション側が簡単に組み込めるようにしました。

携帯端末でテンプレートを利用する応用システムとして、看護師がベッドサイドから入力するシステムと患者さんが直接入力するセルフ入力システムと名付けたシステムを開発しました。異なるアプリケーションでも我々のテンプレートを利用すると、テンプレート間でデータを引用できるのは大きなメリットとなりました。

臨床研究では、患者さんがある臨床研究にエントリーすると、予め用意された一連のテンプレートの一覧が提示され、上から順にテンプレートを選択して入力する流れとなります。バージョン3ではこの機能を一般化し、患者さんの診療課題を登録すると、入院や手術などのイベントを拾い出し、それをトリガーに一連のテンプレートを提示する機能を開発しました。

三井住友銀行さんが、情報銀行をやりたいとのことで阪大病院に協力要請がありました。医療についての情報銀行とはPersonal Health Record（PHR）のことと理解し、協力することとしました。PHRでも、一連のテンプレートで記録を作成する機能が必要と考えました。そのデータを患者閲覧用の表現に変換して患者のスマートフォンで見せ、また、患者さんも自分のスマートフォンで自覚症状等を入力して医師に見せるようにすることを目標に、現在も開発を進めてもらっています。

社長職を経験したことの振り返りとこれから

私は、2021年に大阪大学医学系研究科から国立病院機構大阪医療センターに異動することになりました。ベンチャー会社の社長を兼務することはできないために、社長をTDさんに譲り、MKSを退職することになりました。社長職は、最初は大変苦労したものの、自分で判断して方針を決めることができること、プログラムエンジニアの人とかなり深いレベルで議論でき、私自身の情報処理技術の理解が深まったこと、ベンダー側の苦労が分かるようになったこと等良いことが多くありました。人の縁とは不思議なもので、気が付くと、心を許せる楽しい仲間には囲まれていました。私からは、いつも難しい課題を投げかけていたと思いますが、皆が前向きに取り組んでくれました。家内は総務や経理の

仕事を担当してくれ、小さな会社ですが、家族のような雰囲気で楽しく仕事をさせてもらいました。MKSに集まってくれたメンバーに感謝です。

悲しかったのは、Mさんが大腸癌で亡くなられたことでした。長い闘病生活で一時は乗り切ったと思い喜んでいたのですが、再発したがんは強烈でした。Mさんには、阪大病院で技術を担当する人が必要になったことから、阪大医療情報部に異動してもらい、MKSと阪大の架け橋的な仕事をしてもらっていました。これによって、臨床研究を支援するシステムを阪大関連病院に展開でき、今でも利用され、多くの臨床研究を支援し続けています。Mさんの功績にも感謝です。

冒頭に私は趣味がないと申しましたが、MKSの事業を進めることが私の趣味のようになっています。現在の病院長職は、いずれ退職することになります。その後は気軽な立場でMKSに戻り、活動を再開したいと思っています。PHRや多施設共同研究を支援する事業は、まだまだやるべきことがあると思っています。また、新しいチャレンジとして、意思決定支援システムもやりたいと思っています。JAHISの皆さまとは、末永くお付き合いいただければと思います。



図4 私が在職時のMKSのおよそのメンバー

2024年 JAHIS講演会&賀詞交換会 総務会

1月23日（火）16：00より、東京内幸町のイイノカンファレンスセンター4階において、「2024年JAHIS講演会&賀詞交換会」を開催いたしました。今回は、2020年以来となる賀詞交換会でしたが、来賓、会員等約200名の方にご参加いただき、大変盛況なイベントになりました。

■プログラム

第1部 JAHIS講演会		司会進行	大寄 朋子
(1) 16：00～16：05	開会挨拶	総務会長	下山 赤城
(2) 16：05～16：20	「2024年の年頭にあって」	運営会議議長	大原 通宏
(3) 16：20～17：35	特別講演「脳を知って脳を活かす」	東京大学薬学部 教授	池谷 裕二 様
(4) 17：35～17：45	質疑応答		
(5) 17：45～17：50	閉会挨拶	総務会副会長	柴 健一郎
第2部 賀詞交換会		司会進行	大寄 朋子
(1) 18：00～	開会挨拶	会長	森田 隆之
(2) 18：05～	ご来賓挨拶		
	厚生労働省 医政局 特定医薬品開発支援・医療情報担当 参事官	田中 彰子	様
	経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課長	橋本 泰輔	様
	デジタル庁 国民向けサービスグループ 統括官付参事官	上田 尚弘	様
(3) 18：20	新規入会会員ご紹介		
(4) 18：30	乾杯	一般財団法人医療情報システム開発センター 理事長	山本 隆一 様
(5) 19：30	中締め	事務局長	真野 誠

■参加人数概要

講演会		賀詞交換会	
ご来賓（報道関係含む）	27名	ご来賓（報道関係含む）	51名
会員（役員含む）	111名	会員（新規会員含む）	131名（51社）
事務局および関係スタッフ	13名	事務局および関係スタッフ	13名
	151名		195名

■講演会の様子

大寄朋子さんの司会で、下山赤城 JAHIS総務会長の挨拶から講演会が始まりました。

大原通宏JAHIS運営会議議長より、「2023年度の第三四半期まで」の各部会の業務報告がありました。特に、昨今のサイバーセキュリティの脅威に対して、JAHISの取り組みとして、

- ・医療機関に向けてのセキュリティ調査の実施
- ・戦略企画部内に、サイバーセキュリティ対策TFの設置
- ・無償のセキュリティ関連セミナーの実施

を行ってきたことが報告されました。また、「2024年の活動方針」が示されました。会員サービスの向上を図り、会員メンバーの活動を各個社に正しく評価していただくためにも、JAHISブランドの価値を高めたいと強いメッセージがありました。

続いて、当講演会の目玉となる東京大学薬学部教授の池谷裕二先生による「脳を知って脳を活かす」と題した特別講演です。ご講演は、参加者のこれからの生き方に多くの示唆を与える内容だったと思います。「楽しんで生きる」ことを実践するために、歳を取ると記憶力が衰えるという思い込みに惑わされず、記憶の「汎化」の利点を活かし、またシータ波が増える状況を、日々の生活の中で自ら作って、将来への「直観」を育てることが大切だと感じました。また実体験を増やし身体を使うことが、頭だけで考えるよりも重要で、「やる気は行動の原因ではなく結果である」とのご説明は、今からでも遅くない気づきとなりました。「海馬」、「線条体」、「側坐核」など多くの専門用語がありましたが、「脳」をわかり易く解説いただきました。目の錯覚を利用した脳の認知のいい加減さも時折話題に入れていただいた講演ですが、笑いも会場内におこり、質疑も活発におこなわれ、途中で退席される聴衆は一人も出ないご講演となりました（参照：後述のアンケート結果）。後日多くの方から、この講演の資料や動画が入手できないかとの照会がありましたが、配布等はできませんので、悪しからずご了承のほどお願いいたします。

最後は、柴健一郎 JAHIS総務会副会長の閉会の挨拶で、第一部は閉会となりました。

■賀詞交換会の様子

第二部は、18：00から会場を移して、森田隆之JAHIS会長の挨拶で開幕しました。森田会長から、能登地震により被災された方々に心よりお見舞い申し上げると前置きされた上で、「ダボス会議に参加してきました。感染症に続きウクライナや中国等の地政学リスクはありますが、経済界は非常に活発に動き方出しています。2024年は医療DXを本格的に推進させる年になります。我々は、各省庁や関連機関との連携を密にして、今後ともデータ利活用の提言や啓発活動、標準化、ならびにサイバーセキュリティ対策を通して、データ循環型社会による「健康で安心して暮らせる社会」の「2030ビジョン」実現を目指し、活動を進めてまいります。皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします」との話がありました。

ご来賓を代表して、厚生労働省 医政局 特定医薬品開発支援・医療情報担当参事官 田中彰子様からご挨拶をいただきました。田中様からは、「全国医療情報プラットフォームをベースに、現在電子カルテ情報共有サービス及び標準型電子カルテの実現に向けて推進しており、JAHIS会員の皆様にも是非ご協力をお願いしたい」とのお話がありました。

続いて、経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課長 橋本泰輔様より「国民・患者が主体となった保健医療情報の活用の実現と国民・患者の個別ニーズに応じた保健医療サービスの提

供には、民間PHR事業者との連携が重要であり、それに向けた環境整備を進めていきたい」とのご挨拶がありました。

更に続いて、デジタル庁 国民向けサービスグループ 統括官付参事官 上田尚弘様からご挨拶をいただきました。上田様からは、「田中参事官が推進している、標準型電子カルテや診療報酬改定DXのシステム調達等で協業させて頂いていると共に、診療報酬算定の基礎となるPMH（Public Medical Hub）の実現に向けて総務省と協業している。JAHIS会員の皆様にも是非ご協力をお願いしたい」とのお話がありました。

次のプログラムは、新規会員のご紹介です。2024年1月1日現在、本年度の新規会員15社のうち、7社18名の方にご出席をいただきました。7社の代表のご紹介と、新規会員を代表して、株式会社千早ティースリーの谷口仁志様から、自社のご紹介と会員の皆様でもし当社のサービスをご検討される方は是非お声掛け下さい、とのお話がありました。

乾杯のご発声は、恒例となった感がありますが、一般財団法人医療情報システム開発センター 理事長 山本隆一様にお願い致しました。山本先生からは「厚生労働省の田中参事官の主催する各種有識者会議の委員として協業しているところであり、MEDISとしても医療DXの実現に向けて貢献していきたい」とのお話がありました。

中締めは、真野誠 JAHIS事務局長が挨拶を行い、「2024年は、来賓の方々からのご挨拶にもありました様に、医療DX、診療報酬改定DXという大きな流れが佳境になってきます。ぜひ、この新年の節目に医療DXのビジョンをしっかりと固めてから進めてください。」とまとめて、賀詞交換会を閉会いたしました。



JAHIS総務会長 下山赤城



JAHIS運営会議 議長 大原通宏



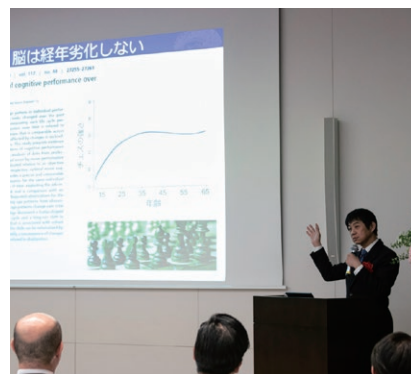
大原議長の「2024年の年頭にあって」



満員の講演会場



東大薬学部教授 池谷裕二様



特別講演の様子



特別講演 質疑応答の様子



JAHIS総務会副会長 柴健一郎



JAHIS会長 森田隆之



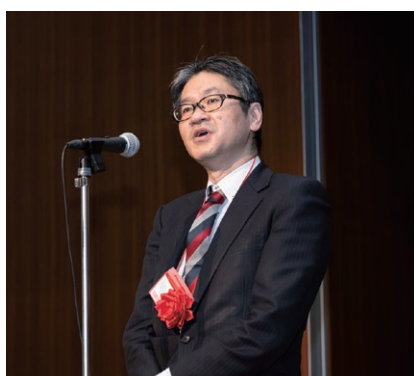
厚労省医政局参事官 田中彰子様



経産省ヘルスケア産業課長 橋本泰輔様



新規会員の代表者の皆様



デジタル庁統括参事官 上田尚弘様



(一財)医療情報システム開発センター
理事長 山本隆一様



歓談の様子



歓談の様子

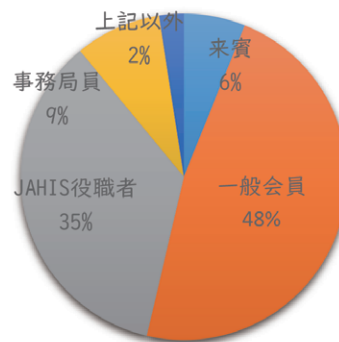


JAHIS事務局長 真野誠

2024年 講演会&賀詞交歓会 アンケート集計結果

1 貴方のお立場を教えてください。

・ 来賓	5
・ 一般会員	39
・ JAHIS役職者	29
・ 事務局員	7
・ 上記以外	2
	82



◆ 講演会について

2 開始時間について

・ 丁度良い	78
・ 早すぎる	0
・ 遅すぎる	2
・ 未回答	2



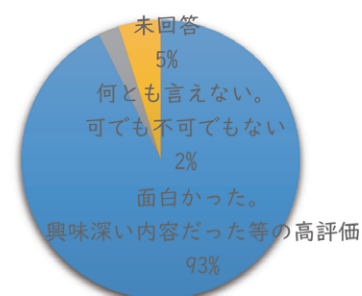
3 全体時間について

・ 丁度良い	79
・ 長すぎる	0
・ 短すぎる	0
・ 未回答	3



4 特別講演者について

・ 面白かった。 興味深い内容だった等の高評価	76
・ 面白くなかった。 参考にならなかった等の低評価	0
・ 何とも言えない。 可でも不可でもない	2
・ 未回答	4



5 全体の運用について

・ スムースだったと思う	67
・ 普通だと思う	11
・ 改善の余地があると思う	1
・ 未回答	3



6 改善の余地があると思うと答えた方の理由

乾杯前の挨拶が長いのはいつもと同じですが、新規入会者の紹介を乾杯前にすると長すぎると感じた

◆ 賀詞交換会について

7 賀詞交換会の開始時間について

・ 丁度良い	75
・ 早すぎる	0
・ 遅すぎる	4
・ 未回答	3



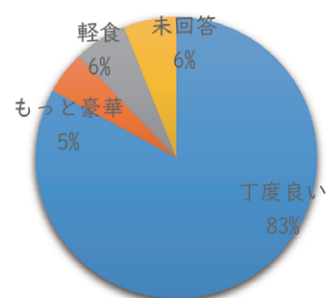
8 全体時間について

・ 丁度良い	71
・ 長すぎる	4
・ 短すぎる	3
・ 未回答	4



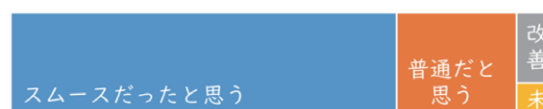
9 食事の量や質について

・ 丁度良い量と質だった	68
・ もっと豪華な食事が良かった	4
・ 軽食程度で良い	5
・ 未回答	5



10 全体の運用について

・ スムースだったと思う	58
・ 普通だと思う	18
・ 改善の余地があると思う	4
・ 未回答	2



11 改善の余地があると思うと答えた方の理由

- ・ 乾杯までの時間が長い。
- ・ 乾杯前の挨拶が長すぎると感じた
- ・ 今回の取組で乾杯の前にご挨拶等を行ったのは良いと思いますが、人数の割にテーブルが少なすぎる様に思いました。乾杯グラスを持ったまま、ご挨拶のお話を聞くには、少しお時間が長すぎるように感じます。来年も同じスケジュールにされるのであれば、小さいテーブルを増やして全員がテーブル周りつける様にして、グラスを置いてご挨拶に集中できる環境にされるのが良いと思います。
- ・ もっと広い部屋で開催してほしい。非常に密でした。
(ほぼみんなマスクしていないし)

多くの方にアンケートにご協力いただきました。ありがとうございました。

第43回 医療情報学連合大会 HELICS チュートリアル報告 ～「JAHISにおける 標準化への取り組み」の紹介～

運営幹事（標準化推進部会担当）
国内標準化委員会 委員長
(キヤノンメディカルシステムズ株)

た な か と し お
田中 利夫

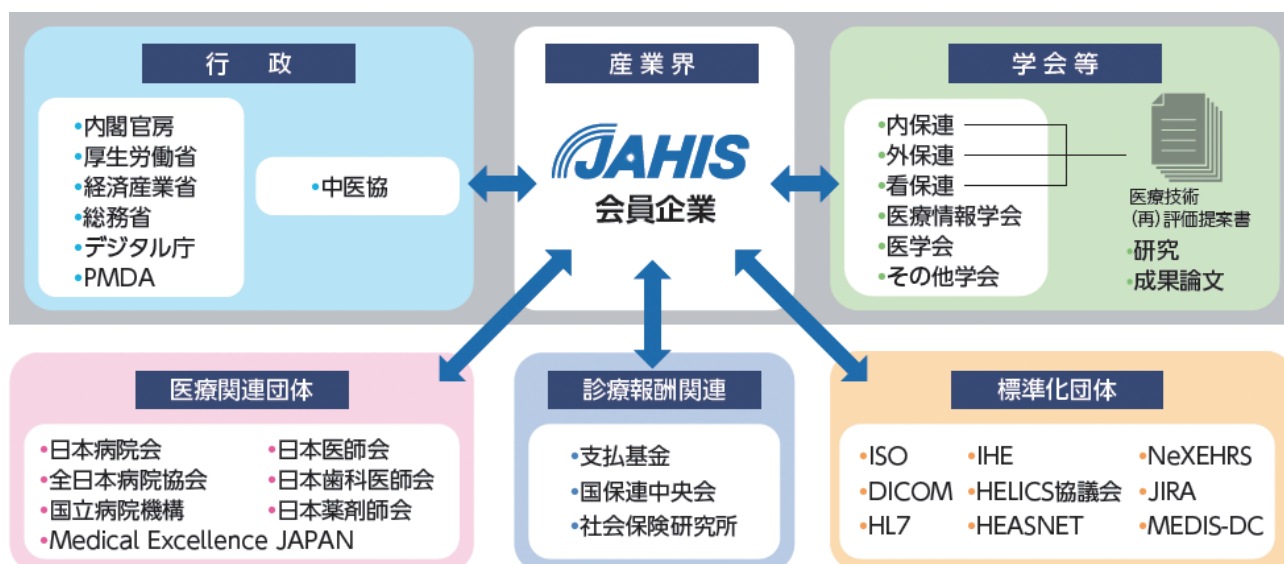


第43回医療情報学連合大会が2023年11月22日～25日に神戸ファッションマートを会場として開催されました。11月22日に医療情報標準化推進協議会（HELICS協議会）主催のチュートリアルがあり、(1) HELICS協議会、(2) JAMI、(3) JIRA、(4) JAHIS、(5) GS1 Japan、(6) IHE-Jの6団体が、標準化活動への取り組みの紹介を行いました。チュートリアルの概要は以下の通りです。

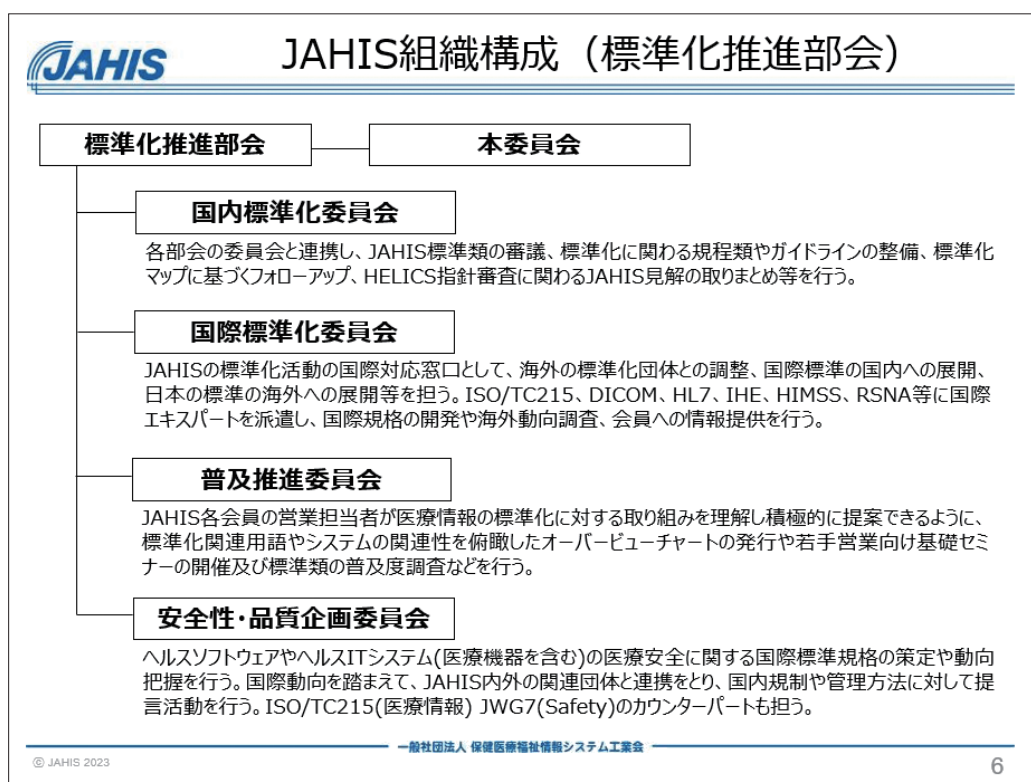
開催日時	2023年11月22日（水） 13時00分 ～ 14時30分														
開催会場	神戸ファッションマート B会場（Web配信あり）														
テ ー マ	HELICS協議会チュートリアル ～会員各団体の標準化への取り組み紹介～														
座 長	江本 豊（HELICS協議会 広報委員会委員長）														
概 要	医療情報標準化推進協議会（HELICS協議会）は、2001年に設立されました。主な活動は、医療情報システムで扱う患者情報などを電子的に交換するための方法、コードや保存形式について、我が国の医療情報分野に適用し利用することが望ましい標準規格を評価審査することです。利用分野ごとで使用するべき標準規格を推奨し、指針を定め、医療情報標準化レポートを提供しています。 HELICS協議会は「標準に関する関係者合意を形成しうる団体」として選定されており、採択された指針のなかから、厚生労働省の保健医療情報標準化会議の審査を経て、厚労省標準規格が定められます。現在26の厚労省標準規格があります。 HELICS協議会は2023年現在、12の団体が会員となっています。本チュートリアルでは、その中から6つの会員団体の医療情報標準化への取り組みの最新状況を解説します。 <プログラム> <table><tr><td>1) HELICS協議会の取り組み</td><td>岡田 美保子（HELICS）</td></tr><tr><td>2) 日本医療情報学会の取り組み</td><td>山下 貴範（JAMI）</td></tr><tr><td>3) 日本画像医療システム工業会の取り組み</td><td>鈴木 真人（JIRA）</td></tr><tr><td>4) 保健医療福祉情報システム工業会の取り組み</td><td>田中 利夫（JAHIS）</td></tr><tr><td>5) GS1 Japan（流通システム開発センター）の取り組み</td><td>上野 善裕（GS1 Japan）</td></tr><tr><td>6) 日本HL7協会の取り組み</td><td>檀原 一之（HL7-J）</td></tr></table>			1) HELICS協議会の取り組み	岡田 美保子（HELICS）	2) 日本医療情報学会の取り組み	山下 貴範（JAMI）	3) 日本画像医療システム工業会の取り組み	鈴木 真人（JIRA）	4) 保健医療福祉情報システム工業会の取り組み	田中 利夫（JAHIS）	5) GS1 Japan（流通システム開発センター）の取り組み	上野 善裕（GS1 Japan）	6) 日本HL7協会の取り組み	檀原 一之（HL7-J）
1) HELICS協議会の取り組み	岡田 美保子（HELICS）														
2) 日本医療情報学会の取り組み	山下 貴範（JAMI）														
3) 日本画像医療システム工業会の取り組み	鈴木 真人（JIRA）														
4) 保健医療福祉情報システム工業会の取り組み	田中 利夫（JAHIS）														
5) GS1 Japan（流通システム開発センター）の取り組み	上野 善裕（GS1 Japan）														
6) 日本HL7協会の取り組み	檀原 一之（HL7-J）														

以下、筆者が紹介した「JAHISにおける標準化への取り組み」の概要についてご報告します。

はじめに、JAHISは1994年4月に設立された工業会であり、保健・医療・福祉の各分野における情報システムや医療機器の事業者等、ヘルスケア産業400社近くの会員（2023年11月1日現在：384社）が参加していること、行政・学会・諸団体と連携を取り、医療ITの推進、標準化を進めていることを説明しました。



組織およびその運営体制がしっかりしていることがJAHISの強みであると考えておりますので、JAHIS全体および標準化推進部会の組織構成についても紹介しました。



続いて、医療情報に関連する標準類の制定はJAHISの主要なミッションのひとつであることを強調した上で、これまでに制定した「JAHIS標準」および「JAHIS技術文書」の一覧がJAHISトップページ（<https://www.jahis.jp/>）右側の「制定済標準類」バナーから参照でき、さらにそこからJAHIS標準類文書および関連資料等がダウンロードできることを説明しました。



また、上記バナー真下の「標準類全体図オーバービューチャート」バナーからは、医療情報に関する主な標準類の関係を図で表した「医療情報システムにおける標準類オーバービューチャート」を入手いただけることを紹介しました。本チャートはPDFファイル形式でご参照いただくことを想定しており、各標準類名のところに、それぞれ関連するサイトへのリンクが貼ってあることを説明しました。なお、HELICS協議会のページ（http://helics.umin.ac.jp/event_20231122pre.html）からダウンロード可能なPDF資料には、リンクの貼ってあるPDF版のオーバービューチャートそのものを入れました。（「標準類オーバービューチャート」については、普及推進委員会 鳥井委員が執筆された会誌71号の記事もご参照ください。）

JAHISが標準類の普及推進活動の一環として開催しているセミナーについてもご紹介させていただきました。今回は、2023年10月19日に開催された「MDS/SDS書き方セミナー」と2024年2月2日に開催予定の「医療情報標準化セミナー」について紹介しました。

さらに、国際標準化活動への参画について、JAHISでは、ISO/TC215、HL7、DICOM、IHE等の国際標準関連団体にエキスパートを派遣し動向を把握すると共に、日本および業界としての意見を国際標準に反映する活動も行っており、それらの活動をまとめた「国際標準化総覧」が、JAHISホームページから入手可能であることを説明しました。

最後に、「国際標準化総覧」に記載されている「標準化の意義」の文章をそのまま引用させていただき、JAHISはこれからも行政や関連団体等の皆様と連携し医療DXに向けた標準化の推進に取り組む所存であることを述べて締めとさせていただきました。



最後に

標準化は一個人の努力だけで達成できるものでもなく、また一企業の活動だけで作られるものでもありません。世にある標準といわれるものの多くは、それが唯一無二の実現方法ではなく、数ある候補の中からその時点で関係者の議論によって選ばれたものである場合が大半です。即ち標準はコンセンサスの成果であり、その時点でのベストプラクティスということができます。また、標準化の範囲もいくつかあり、世界標準に始まって、国内標準、業界標準などが挙げられますが、世界標準、国内標準のいずれにしてもまず、関係者間でコンセンサスを得るためには、多くの企業が集まる工業会等が中心になって進めていくことが重要です。その意味においてJAHISの持つ役割は大きなものといえます。

JAHIS 国際標準化総覧「2.1 標準化の意義」より引用

今回、標準化推進部会担当の運営幹事（兼）国内標準化委員会委員長である筆者が、JAHISにおける標準化への取り組みについて、組織体制も含めて紹介させていただきました。健康・医療・介護分野におけるDX推進の機運が高まる中、医療情報関連の標準化推進を担うJAHISへの期待はさらに高まるものと思われます。各部門・委員会・WG/TF等にご参加いただいている関係各位のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、今後とも、引き続きよろしくお願い申し上げます。

医療保険訪問看護における オンライン資格確認及び オンライン請求について



医事コンピュータ部会
介護システム委員会 副委員長
(株)カナミックネットワーク

いしかわ りゅう た
石川 竜太



医事コンピュータ部会
介護システム委員会 副委員長
(株)日立システムズ

たかはし かずひこ
高橋 和彦



医事コンピュータ部会
介護システム委員会 医療訪問看護報酬改定対応WG サブリーダー
(株)南日本情報処理センター

いまむら まさのり
今村 将訓

1. はじめに

これまで訪問看護ステーションにおいては紙レセプトでしか訪問看護療養費を請求できず、データの収集・分析及び実態を把握するのが難しい状況でした。オンライン資格確認においても患者・利用者宅へ訪問してから資格情報の確認を行う必要があり、既に導入が進められている医療機関等とは違う新たな仕組みが必要な状況となっていました。それらを背景として現在2024年6月開始に向け訪問看護ステーションに導入が進められている医療保険訪問看護オンライン資格確認及び訪問看護療養費のオンライン請求についてご紹介します。

2. オンライン資格確認

1) オンライン資格確認の概要

医療DXにおける「マイナンバーカードと健康保険証の一体化の加速等」の工程において2024年12月2日の健康保険証の廃止が予定されており、患者の医療保険における資格情報等をマイナンバーカードを使用して取得する仕組みが必要となっています。

医療DXの推進に関する工程表〔全体像〕では2024年秋と記載されていますが2023年12月22日の閣議で12月2日に廃止と示されました。

医療DXの推進に関する工程表〔全体像〕

	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度～ (令和8年度～)
マイナンバーカードと健康保険証の一体化の加速等	▼保険医療機関等のオンライン資格確認の原則義務化 訪問診療等、柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の施術所等でのオンライン資格確認の構築 運用開始 ○令和6年秋・保険証廃止 スマホからの資格確認の構築 運用開始 生活保護（医療扶助）のオンライン資格確認対応 運用開始			

図1 医療DXの工程表（一部抜粋）

〔引用〕医療DX推進本部（第2回）資料3 医療DXの推進に関する工程表（案）（全体像）より（一部抜粋）

医科・歯科・調剤においては既にオンライン資格確認の導入が進められていますが、患者宅へ訪問してから資格情報の確認を行う必要があり若干仕組みが異なるため、医科・歯科・調剤の仕組みをそのまま使うことができなく、現在システムの構築が進められています。

医療保険訪問看護の場合、患者が訪問看護ステーションに来ることは無く、訪問看護ステーションの看護師等が患者の居住地に赴きます。そのためモバイル機器を用いたオンライン資格確認の仕組みとなっています。

居宅同意取得型

訪問看護におけるオンライン資格確認の仕組み案（概要）

- 初回訪問時のマイナンバーカードによる本人確認に基づく資格情報の取得及び薬剤情報等の提供に関する同意は、医療関係者が持参したモバイル端末等を用いて実施する。
 - 訪問看護では医療関係者が利用者宅等を訪問することから、利用者のなりすましリスクが低いことを踏まえ、2回目以降は、当該訪問看護ステーションとの継続的な関係のもと訪問看護が行われている間、訪問看護ステーションにおいて再照会機能（※）を活用した資格確認を行うとともに、薬剤情報等については、初回時の同意に基づき取得可能な仕組みとする。
- ※ あらかじめ訪問看護ステーションにおいて、初回にマイナンバーカードの本人確認により取得した利用者の資格情報を用いて、オンライン資格確認等システムに最新の資格情報を照会し、取得する機能。

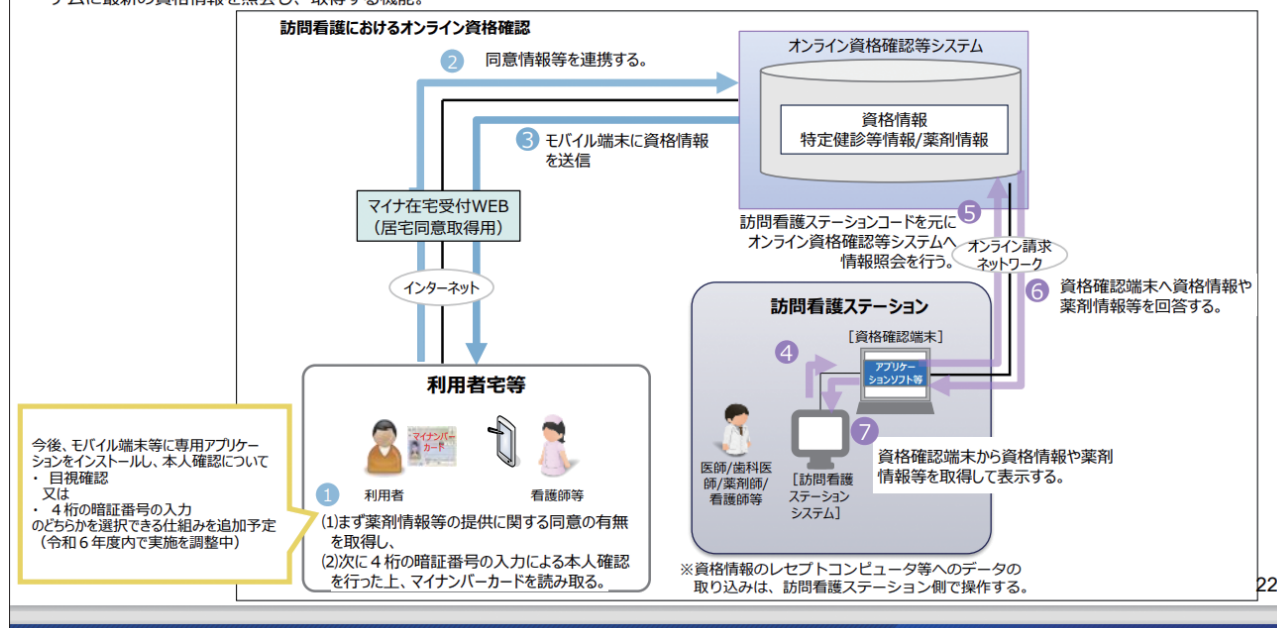


図2 訪問看護におけるオンライン資格確認の仕組み

〔引用〕厚生労働省 訪問看護ステーションにおけるオンライン請求・オンライン資格確認の導入に関するオンライン説明会 資料22ページより

現行の資格確認の運用では、

- (1) 看護師等が患者を訪問した際に、保険証を目視確認し保険証のコピーや保険証を撮影して情報を持ち帰る
- (2) 訪問看護ステーションに戻った後、コピーや撮影した保険証の情報を元にレセプトコンピュータに入力する

という作業でしたが、オンライン資格確認が始まった後は、

- (1) 看護師等が患者を訪問した際（基本初回訪問時）に、患者から訪問看護ステーションに対する資格情報の提供や薬剤情報提供等の提供の同意を得るその際に患者のマイナンバーカードを読み取り本人確認行う
- (2) 訪問看護ステーションに戻ってきた後にオンライン資格端末にて資格情報を入手し、レセプトコンピュータに取り込む等して、レセプトコンピュータ上の患者情報を更新する

に変わります。

保険証情報を持ち帰る際に紛失するリスクが減ることや、持ち帰った保険証情報を手入力ことによる入力誤りや手間が減ることがメリットと言えます。

尚、マイナンバーカードを用いた本人確認は初回訪問時のみ行い、毎回のサービス提供時には本人確認は行わない点も医科・歯科・調剤と大きく異なります。

2) オンライン資格確認の導入スケジュール

診療報酬改定が2024年6月からになったことを受け、2024年6月からの開始が予定されています。

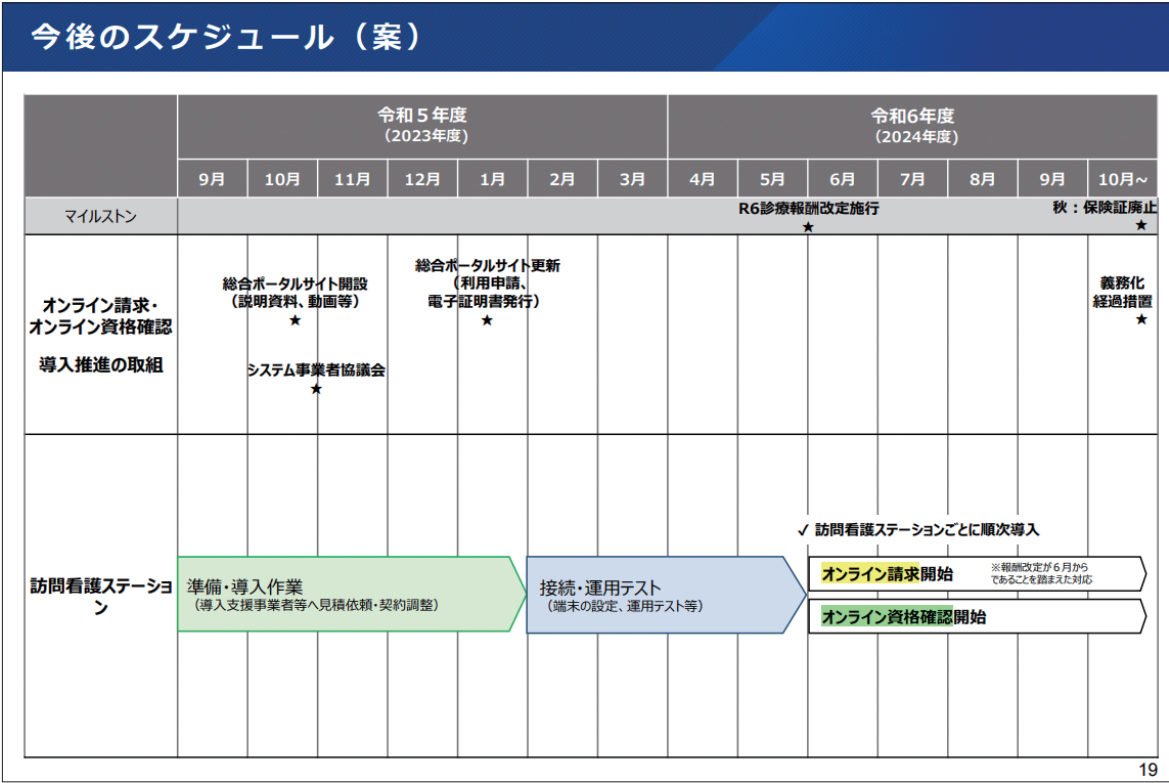


図3 オンライン資格確認スケジュール（案）

[引用] 厚生労働省 訪問看護ステーションにおけるオンライン請求・オンライン 資格確認の導入に関するオンライン説明会 資料19ページより

3) 医療保険訪問看護における課題等

訪問看護を受ける患者は高齢者、認知症患者も多く、マイナンバーカードの取得や、4桁の暗証番号入力による本人確認ができるかが懸念されます。

令和6年度中に4桁の暗証番号による本人確認の他に目視による本人確認が行えるようになる見込みであり早期の導入が期待されます。

3. 医療保険訪問看護のオンライン請求

1) オンライン請求の概要と効果

医療保険訪問看護において2024年6月提供分から、オンライン請求が開始されます。オンライン請求とは、セキュリティが確保されたネットワーク回線を通じて、電子的に作成したレセプトデータを審査支払機関に送付することです。このオンライン請求は医科・歯科・調剤では既に実施されています。

訪問看護レセプト（医療保険）のオンライン請求について

1. 概要・目的

- **オンライン請求**とは、電子的に作成したレセプトデータを、セキュリティが確保されたネットワーク回線により、オンラインで審査支払機関に送付することです。
- 全国の訪問看護ステーションにおける**レセプト請求事務**や、審査支払機関・保険者等における**レセプト処理事務の効率化が図られます**。
- より質の高い医療・看護の実現に向けた、**レセプト情報の利活用**（介護保険分野と合わせた訪問看護全体のデータ分析、地域医療や在宅医療の実態把握等）の推進につながります。

2. 訪問看護の流れとオンライン請求の範囲

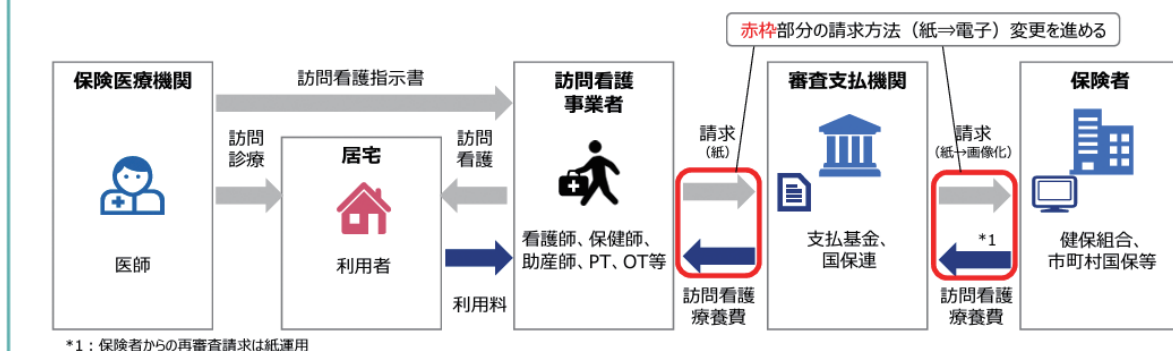


図4 訪問看護レセプト（医療保険）のオンライン請求について

[引用] 厚生労働省 訪問看護ステーションにおけるオンライン請求・オンライン 資格確認の導入に関するオンライン説明会 資料7ページより

オンライン請求により、以下のような効果が期待されています。

- ・レセプトの印刷・発送作業が不要となります。
- ・レセプト請求の受付時間が延長されます。
- ・資格過誤による返戻レセプトが減少します。
- ・審査後に返送される還元帳票が電子データで一元管理できるようになります。

2) スケジュール

オンライン請求とオンライン資格確認は一体的に進められており、2023年10月には総合ポータルサイトが開設され、訪問看護ステーション向けにも説明動画などが公開されました。2024年1月には総合ポータルサイトで利用申請と電子証明書の発行が開始されます。2月からは接続・運用テストが行われ6月の診療報酬改定施行に合わせてオンライン請求が開始されます。また、経過措置が設けられますが、図3に示されている通り、2024年秋には義務化される予定です。

3) 医科、歯科、調剤と訪問看護との違い

医科・歯科・調剤と医療保険訪問看護の違いとして、医科等はオンライン請求が開始されてから義務化まで数年の間があり、返戻再請求のオンライン化についてもオンライン請求開始と同時にではなく、徐々に進められてきました。一方、医療保険訪問看護についてはオンライン請求開始から義務化までの間が短く、返戻再請求のオンライン化も同時に開始されるため、非常にタイトなスケジュールでの対応が要求されています。

介護保険と医療保険訪問看護の違いとして、請求に使用するネットワークが異なります。介護保険は通常のインターネット回線で請求が行えますが、医療保険訪問看護は医科・歯科・調剤と同様にIP-VPN接続方式もしくはIPsec+IKE接続方式での環境が必要となります。そのため介護保険での請求を行っている事業所についてもオンライン請求用のネットワーク環境の準備が必要となります。

4) 課題

オンライン請求システムの使用にあたって、訪問看護ステーションごとに電子証明書およびオンライン請求用端末を用意することが求められています。しかし、介護保険の場合、複数の訪問看護ステーションを抱える法人では、事務センターなどで複数ステーションの請求事務を一括で行っているケースがあります。そのため、医療保険請求では同様の対応ができないことに懸案があります。

また、回線の問題や端末の問題など、何らかの理由でオンライン請求が実施できない場合、CD-Rなどのメディアを使用した請求方法が示されておらず、コンティンジェンシープランはどのようなものか懸念されています。

4. JAHISとしての活動

JAHISとして2017年より厚生労働省が主催する「訪問看護レセプト電子化 関係者検討会議」へオブザーバとして参加してきました。

他にも関係団体と適宜意見交換するなどして情報収集と会員の皆様への情報発信を行って参りました。

また、会員の皆様から頂いた疑義について厚生労働省、社会保険診療報酬支払基金等の関係機関への照会及び回答のとりまとめ等、制度開始に向けた会員の皆様の準備をサポートする活動を行って参りました。

5. さいごに

制度開始まで残り僅かとなってきましたが、運用が見えてくると新たな課題も今後発生してくると予想されます。

今後も関係団体との意見交換の実施、関係機関への疑義照会等を行い、会員の皆様の制度対応が円滑に実施できるように尽力して参りたいと思います。

「JAHIS ePath 実装ガイド Ver1.0」の策定にあたって

医療システム部会 電子カルテ委員会 副委員長
ePath実装ガイド策定WG リーダ
(株)ソフトウェア・サービス

ね ごろ りょうすけ
根来 亮介



1. はじめに

2023年10月に「JAHIS ePath実装ガイドVer.1.0」を発行しました。本ガイドは、2021年に日本医療情報学会（JAMI）標準（JAMISDP04）として公開された「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」（Ver.1.0.1）（以下：ePath仕様書）を各電子カルテベンダーが齟齬なく理解してePath仕様書に準拠した電子クリニカルパスシステムの開発を進めていくための補助的な役割を担うことを目的に作成しました。本稿で本ガイドの概要をご紹介します。

2. ガイドの構成について

本ガイドは、以下の章立てで構成しています。

1. はじめに
2. 主な用語
3. クリニカルパスおよびePathの概要
4. 電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能
5. ePathメッセージの概要
6. ePathのデータ構造と要素の実装

「3. クリニカルパスおよびePathの概要」では、電子クリニカルパスシステムの開発・導入が医療機関・ベンダー毎に進んできたために生じている課題、日本医療情報学会と日本クリニカルパス学会が合同委員会を立ち上げられ2018年度から2020年度にかけて国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）事業「クリニカルパス標準データモデルの開発および利活用（ePathプロジェクト）」が実施されたこと、その成果として「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」がJAMI標準として2021年に公開されたことなどの背景や経緯をあらためて記載しました。電子クリニカルパスシステムの課題やePathの目的などを本ガイドの読み手であるベンダーも再認識しておくことが大切と考えたためです。

続けて「4. 電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能」として、ePath仕様書で定義された「ePathメッセージ」を出力するために、そもそも電子クリニカルパスシステムが備えておくべき機能や構造が存在する点に触れています。ePath仕様書への対応時に（これら前提機能が不足していることによる）大幅な手戻りや改修に陥らないために電子クリニカルパスシステムの設計および開発や改

修の際に考慮しておくことが重要と思われたことから、推奨機能として整理しまとめています（図1）。特に「ePathメッセージ」を出力するにあたり必須となるものは判別が行えるようにもしています。

次に、クリニカルパスとePathメッセージの各項目の対応について全体像を把握する手助けになるように「5. ePathメッセージの概要」の章を設けました（図2）。全体像を把握するのに役にたつと考えています。

4. 電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能		
ePath仕様書で定義されている「ePathメッセージ」を出力するにあたっては、前提となる電子クリニカルパスシステムに求められる構造や機能が存在する。ePathに対応するために電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能を表4-1に示す。なお、「ePathメッセージ」の出力上、必須となる項目には○を記載している。		
表 4-1 ePathに対応するために電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能		
No	必須	内容
1	○	施設パスに対して、元となるひな型パスの標準クリニカルパスコード、標準クリニカルパス名称、標準クリニカルパスバージョンが管理できること。
2	○	施設パスは改版ごとのバージョンを保持できること。
3	○	適用後パスにはどのバージョンの施設パスを適用したか保持していること。
4	○	パスの適応基準を登録できること。
5	○	パス適用時に適応基準を満たしているか確認ができること。
6		パスの病日ごとにイベント名を設定できること。
7		パスの病日を「術前」「術後」のように分割してそれぞれイベント名を設定できること。
8	○	病日ごと、または「術前」「術後」のように病日を分割した単位ごとにアウトカムが複数設定できること。
9	○	アウトカムの達成未達成を判定する観察項目を設定できること。
10	○	観察項目はアウトカムごとに複数設定できること。

図1 電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能の記載

5. ePathメッセージの概要

ePathメッセージと、電子クリニカルパスで管理されている患者情報や入院情報、クリニカルパス情報などとの関連を図5-1に示す。

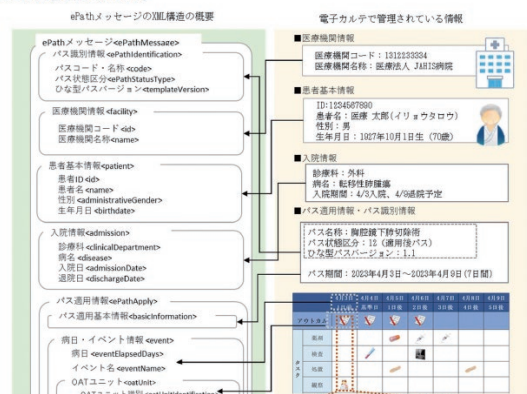


図2 クリニカルパスとePathメッセージの各項目の対応

3. 本ガイドの中心となる「6. ePathのデータ構造と要素の実装」

本章で具体的な実装の解説を行っています。実装内容をイメージしながら読み進められるようにまずePath仕様書の内容に沿ってデータ構造と項目定義の説明、その次にePathメッセージのXML記述例、及びそれを補足する形の解説が1セットとなるような構成で記載しています（図3）。

6.3. 患者基本情報

(1) 患者 ID（項番:1-3-1）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/patient/						患者の基本情報
患者 ID	id	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 1234567890	当該施設における患者を一意に識別する 10 桁の英数字からなる ID

XML 記述例

```
<id>1234567890</id>
```

解説

id は 10 桁に固定されているため 10 桁未満の場合は左 0 埋めにする。

図3 6章の記述の基本構成

ePath仕様書では説明が割愛されているためにベンダーによって解釈や実装に齟齬が生じてしまいそのような項目については特に検討と確認を行い、どのように対応するべきかが明確になるようにつとめました。例えば図3の患者IDは、10桁と定義・説明がなされていますが、10桁に満たない場合は0で埋めるのかどうか解釈の差が発生しうるため、日本医療情報学会・日本クリニカルパス学会合同委員会の有識者に確認を行い、本ガイドでは明確に「左0埋めにする」として解説をしました。

また、パスの段階（「ひな型パス」「施設パス」「適用後パスデータ」）で出力する値が異なる項目の解説では、パスの各段階のXML記述例を記載するようにしています。他にも、出力する値の全部または一部の省略が認められておりどちらの実装を行ってもよいような項目の場合には「省略した場合の出力例」「省略しない場合の出力例」を記載し、ベンダーがどちらの対応方法を採用するにしても参考できるようにしています。（図4）。

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
開始時間	@low	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 20230405123456	YYYYMMDD[HH[MM[SS]]] 表記時刻を設定できない場合は省略してもよい。 ※表記の [] 内の時分秒は省略可能な形式を意味する。
終了時間	@high	出力対象外	出力対象外	0..1	例) 20230405124534	YYYYMMDD[HH[MM[SS]]] 表記時刻を設定できない場合は省略してもよい。 ※表記の [] 内の時分秒は省略可能な形式を意味する。

XML 記述例

<low 属性および high 属性が共に設定可能な場合>

```
<eventTimePeriod low="20230405123456" high="20230405124534"/>
```

<high 属性が設定できない場合>

```
<eventTimePeriod low="20230405123456"/>
```

<時間・分・秒の一部を省略して設定した場合>

```
<eventTimePeriod low="2023040504" high="2023040512"/>
```

図4 場合ごとの出力例を記載

4. おわりに

各電子カルテベンダーがePathへの対応を進めていくことでePathの普及が促進され、ベンダーの間での相互運用性のある電子クリニカルパスシステムの構築、標準化されたパスのデータの蓄積と解析が可能となりクリニカルパスの最適化、更には医療安全の向上と医療の効率化や質の向上につながっていくことが期待されます。ePath仕様書と共に本ガイドを積極的に活用していただければ幸いです。最後になりますが、本ガイド策定にあたってご協力をくださったWG参加各ベンダーの皆様、ご指導ご鞭撻をくださいました日本医療情報学会・日本クリニカルパス学会合同委員会にこの場をお借りしあらためてお礼を申し上げます。

2023年 女性活躍セミナー 実施について

総務会 女性活躍タスクフォース
(日本事務器(株))

つじ まさ み
辻 雅美



1. はじめに

JAHIS会員の皆様には、総務会・女性活躍タスクフォースの活動についてご協力いただき、心から感謝申し上げます。

女性活躍タスクフォースは、2021年に「JAHIS活動に参画する女性会員の人数を増やすこと」を目的に、企画段階からスタートしました。

2021年度、2022年度は、外部講師の方をお招きし、医療業界での女性のキャリアの経験談や女性活躍に繋がる講演と、女性会員の交流を目的とした交流会を実施しました。

2023年度もセミナーを実施しましたので、ご報告をさせていただきます。

2. 2023年度企画

今年度は、企画担当メンバー4名で検討を進め、運営に有志の方2名を加え6名で実施しました。

1) 企画の計画

今年度は、参加されるJAHIS女性会員に、より身近な方からの経験談を伺いたいと考え、JAHIS会員企業の中からご協力いただき、セミナーで講演いただきました。

- ・青木 千恵 様 JAHIS副会長（株式会社NTTデータ 執行役員 第二公共事業本部長）

テーマ：独りで悩まない！～可能性は無限に～

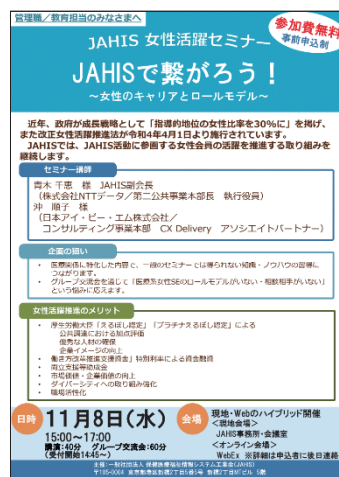
- ・沖 順子 様（日本アイ・ビー・エム株式会社 コンサルティング事業本部 CX Delivery アソシエイトパートナー）

テーマ：D&Iの壁を越えてー私たちのキャリアを考えるー

また、2022年度のセミナーのアンケート結果から、セミナーの開催形式は、オンライン開催と集合開催の併設の要望が多かったため、女性活躍タスクフォースのセミナーでは初となる現地・Webのハイブリッド形式で開催しました。

2) チラシの作成

2022年度のセミナーから、参加対象者である女性会員向けのチラシとその上長である管理者／教育担当者向けの2種類のチラシを作成していました。2022年度のセミナーのアンケート結果から、上長や教育担当者からの紹介がきっかけで、セミナーに参加された方が多かったことが分かったため、2023年度も2種類のチラシを作成しました。



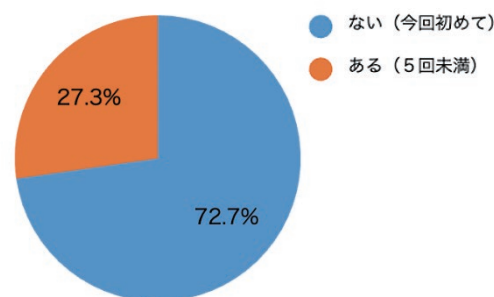
参加動機

参加動機	割合
上長・教育担当	63.6%
同僚より	18.2%
所属組織から	9.1%
JAHIS案内メール	9.1%

3) アンケート結果

「JAHIS教育セミナーへの参加経験」の結果を見ると、今回初めて参加された方が約70%であることから、今回のセミナーが、女性会員がJAHIS活動に参加する第一歩になったと言えます。

JAHS教育セミナーへの参加経験



Category	満足 (Satisfied)	やや満足 (Somewhat Satisfied)	やや不満 (Somewhat Dissatisfied)	不満 (Dissatisfied)
全体 (All)	82%	18%	0%	0%
交流会 (Exchange Meeting)	55%	45%	0%	0%
講演 (Lecture)	82%	18%	0%	0%

30

参加された方からはポジティブなコメントを多く頂いています。

<講演>

- ・多くの経験を積んでこられた方が講師ということもあり、説得力を持ってお話をされていたため、とても参考になりました。
- ・大きな企業での女性のキャリアに関する取り組み内容を聞いて勉強になりました。
- ・ロールモデルである講師の方のリアルな体験談をお伺いでき、とても参考になりました。

<交流会>

- ・取り巻く環境や、キャリアが異なる女性と話せる機会はあまりなかったので、とても貴重な話を聞くことができました。
- ・キャリアに悩んでいる方、キャリアを実現されている方、講師の方の率直なお話を聞いて、背中を押された気持ちで、とても良かったです。
- ・いろんな思いが聞いて参考になりました。働く環境が違うなりに悩みが共有できたこと、逆に自社の良いところが感じられて良かったです。

女性活躍タスクフォースのセミナー主催メンバーからは、現地・Webのハイブリッド開催の準備の大変さはあったが、現地での参加者がセミナー終了後に名刺交換をする姿を見て、“企業の枠を超えた繋がりを創出する一歩になる”という声もあり、ハイブリッド開催の手応えを感じました。

2024年度もアンケート結果を参考にしながら、継続してセミナー等の企画を実施する予定です。

来年度の企画に向けて、ご意見・ご要望を募集しております。ぜひご連絡ください。

2024年度も総務会・女性活躍タスクフォースの活動にご協力いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

女性活躍セミナーのご紹介

JAHIS 女性会員向けに女性活躍セミナーを開催しております
本内容を教育担当部署・担当者や当該セミナーの参加を勧めたい方に
ご紹介くださいますようお願いいたします

メリット・ねらい

実績

参加をご検討ください

参加者の声

おねがい



管理職／教育担当のみなさまへ、参加を検討されるみなさまへ

メリット・ねらい

メリット

- 厚生労働大臣「えるぼし認定」「プラチナえるぼし認定」による
公共調達における加点評価、優秀な人材の確保、企業イメージの向上
- 「働き方改革推進支援資金」特別利率による資金融資
- 両立支援等助成金
- 市場価値・企業価値の向上
- ダイバーシティへの取り組み強化
- 職場活性化

ねらい

- 医療関係に特化した内容で、一般のセミナーでは得られない知識・ノウハウの習得につながります。
- グループ交流会を通じて「医療系女性 SE のロールモデルがない・相談相手がない」という悩みに応えます。

女性活躍セミナーのご紹介



実績

▶2021 年度

医療現場の今昔物語と、女性 SE への期待

宇都 由美子 氏

鹿児島大学病院 医療情報部 教授・部長（兼）特命副院長

▶2022 年度

ワンランクアップ！医療現場での仕事術～ユーザから頼られるパートナーを目指して～

樋口 由布子 氏

東京医科大学病院 経営企画室

第 1 回 医療情報担当者の視点を知ろう！

第 2 回 環境が変わってもスキルを活かす方法

第 3 回 私たちが良い仕事をするために ～医療現場から学ぼう～

▶2023 年度

JAHIS で繋がろう！女性のキャリアとロールモデル

「独りで悩まない！～可能性は無限に～」

青木 千恵 氏 JAHIS 副会長

株式会社 NTT データ／執行役員 第二公共事業本部長

「D&I の壁を越えて-私たちのキャリアを考える-」

沖 順子 氏

日本アイ・ビー・エム株式会社／

コンサルティング事業本部 CX Delivery アソシエイトパートナー

参加をご検討ください

これからの働き方や
キャリアを考える上でのヒントや気づき
をサポートします。

セミナーの後半はグループ交流会を
行います。
新しい出会いにも繋がります。

参加者の声

● 幅広いキャリアを積まれた方々と会話
できる交流会は、今後の自分の働き方の
参考になります。

● 自社には女性の先輩が少ないので、
会社は違っても女性の先輩方の意見を
聞けるのは良い機会でした。

● 講師の先生のお話が大変興味深く、
交流会ではアドバイスもいただけて良かっ
たです。

● 大きな企業での女性のキャリアに関す
る取り組み内容をきいて勉強になりまし
た。弊社でも同様の取り組みをしてもら
いたいなと感じました。

● 当社には、圧倒的に女性キャリアを考
えるような機会が少なかったと感じました。

● キャリアについて必要以上に焦ったり不
安に思うことはない、とメッセージをいた
だき安心しました。



おねがい

JAHIS 会員企業の女性会員向けのセミナーを実施しております。
今後もセミナー・交流会の開催を継続して行います。
JAHIS からの案内メール・セミナー申込ページを是非チェックしてく
ださい。

問い合わせ先：JAHIS 総務会 女性活躍推進 TF
お問い合わせフォーム <https://www.jahis.jp/contact/>
Web サイト <https://www.jahis.jp>

第4期特定健診・特定保健指導 見直しの概要について

保健福祉システム部会
健康支援システム委員会 副委員長
(株NTTデータ)

いのうえ ひろゆき
井上 裕之



1. はじめに

2008年度に開始された特定健診・特定保健指導も今年度で16年が経過し、2024年度からは第4期を迎えます。厚生労働省では、2021年12月から「第4期特定健診・特定保健指導の見直し検討会」¹の中で第4期の見直しに関する検討が行われてきました。JAHISもシステム改修に関するワーキング・グループ、および同作業班に参加し、制度変更に伴うシステムへの影響、および具体的な改修方針について意見を述べさせていただいたところです。

特定健診・特定保健指導は、2013年度の第2期、2018年度の第3期と見直しが行われています。制度開始当初に特定健診の受診率70%、特定保健指導の実施率45%を目標としましたが、その目標に到達していない課題は残しつつも、第4期では実施率の向上だけでなく、特定保健指導が行動変容や健康状態の改善に結びついているか、つまりアウトカムが出ているかという制度本来の健康増進の達成に向けた見直しが行われたことが大きなポイントです。本稿では、主にシステム改修に関連する第4期の見直しの内容について触れてみたいと思います。

2. 特定健診

特定健診については、「健康増進に係る科学的な知見を踏まえた技術的事項に関するWG」²で見直しの内容が議論されました。

質問項目については、元の質問数はそのままに、「喫煙」「飲酒」「飲酒量」「保健指導の希望」について見直しが行われました。喫煙については、喫煙者が禁煙しても生涯非喫煙者と比較して健康リスクが高いことや再喫煙のリスクがあること、飲酒については、頻度や量を明確にしてビンジ飲酒によるリスクの評価や、禁酒者ともともと飲まない者を区別してリスクを評価できるようにする、といった意図によるものとなっています。「喫煙」「飲酒」「飲酒量」については質問項目のJLAC10コードは変更されていませんが、回答選択肢が変更されたことから、新たなOIDが追加されました。JLAC10コードとOIDの組み合わせが第3期までと異なるため、質問と回答のパターンの関連を固定的に定義しているシステムは実装時に注意が必要です。

健診項目については、従来から基本項目とされていた中性脂肪について、動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版で非空腹時採血の基準が新たに設定されたことから、空腹時中性脂肪と随時中性脂肪に見直されました。これに伴い、保健指導判定値、及び階層化基準も変更されました。なお、メタ

ポリックシンドローム判定については、空腹時中性脂肪と随時中性脂肪のどちらも150mg/dL以上をリスクとしていますのでご注意ください。その他、特定健診受診後に服薬を開始した特定保健指導対象者を実施率の分母から除くことが可能となったことから、「保険者再確認 服薬1（血圧）」「保険者再確認 服薬2（血糖）」「保険者再確認 服薬3（脂質）」について再確認コードの内容が変更されました。また、早期介入評価として「初回面接実施」のコード内容の変更、および尿検査に関する「測定不可能・検査未実施の理由」の追加も行われています。

3. 特定保健指導

特定保健指導については、「効率的・効果的な実施方法等に関するWG」³ で見直しの内容が議論されました。

これまでは指導実績に応じて加算されるポイントをベースとして実施されてきた特定保健指導ですが、第4期よりアウトカム評価を重視した体系に大きく見直されます。つまり、特定保健指導により個人の行動変容が促され、成果が出たことを評価するという方式です。具体的には、腹囲2cm・体重2kg減を達成すれば、ポイントに関係なく、特定保健指導は終了となります。これは、第3期に導入された「モデル実施」が標準となったと考えることができます。この腹囲2cm・体重2kg減を達成できなかった場合は従来のポイント制となりますが、評価項目について、これまでのプロセス評価項目に加え、アウトカム評価項目が追加され、生活習慣に改善が見られた場合はポイントを加算できるようになります。プロセス評価についても、特定保健指導の早期介入を評価する項目や、コロナ禍でオンライン面接やアプリの活用が進んだことから支援形態に関してICTを用いた方法が追加されました。

特定保健指導の成果を重視し、アウトカム評価（成果が出たことへの評価を基本とする評価方法）を導入

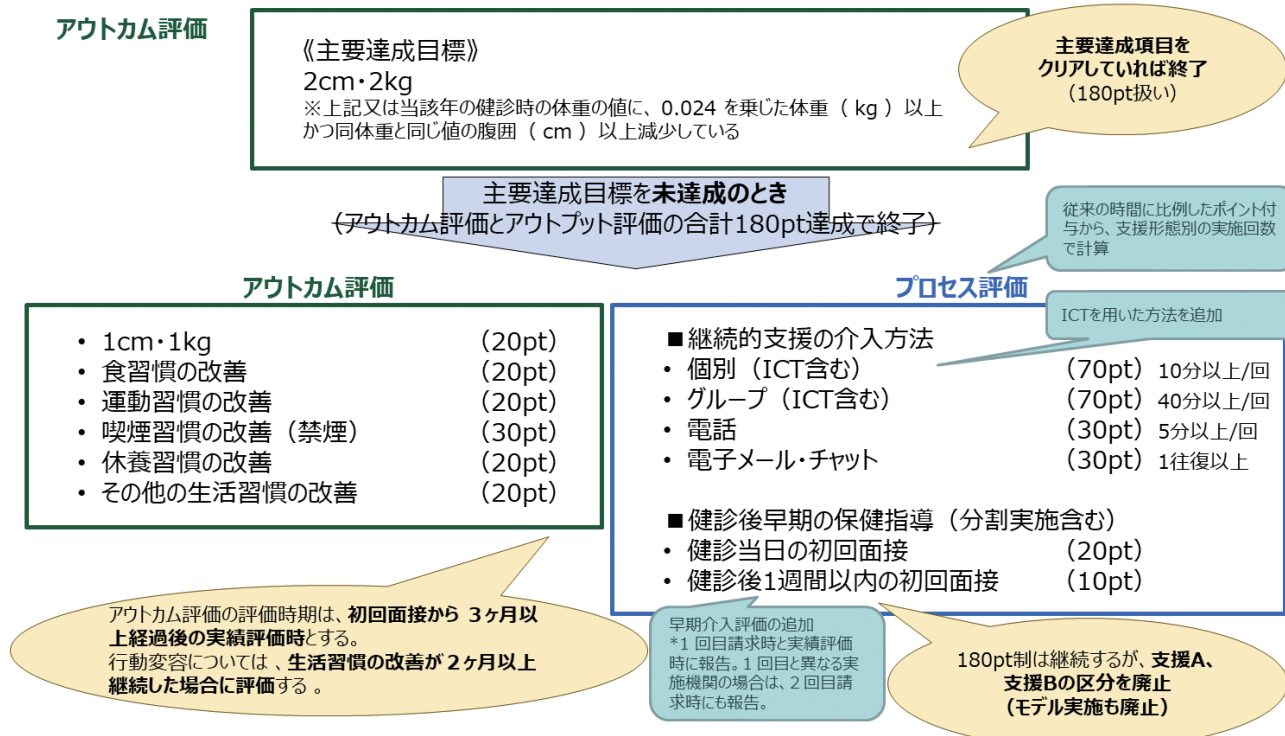


図 特定保健指導の評価体系の変更

その他、特定保健指導開始後に服薬を開始した特定保健指導対象者を実施率の分母から除くことが可能となったことから、「特定保健指導後服薬（血圧）」「特定保健指導後服薬（血糖）」「特定保健指導後服薬（脂質）」の3項目が追加されました。

4. その他

特定保健指導の指導内容、あるいは指導による対象者の行動変容に関する情報を収集し、対象者の特性に応じた質の高い保健指導を対象者に還元していく仕組みを構築することを目的として、「見える化」を推進する検討が行われました。積極的支援対象者について、これまで終了者数として一括りで報告していた従来の集計項目に加え、腹囲2cm・体重2kg減および腹囲1cm・体重1kg減達成者数、食習慣、運動習慣、喫煙習慣、休養習慣、その他の生活習慣といった生活習慣改善の行動変容が認められた人数を報告することになり、今後の効果検証に活用される見込みです。

5. おわりに

第4期の見直しにおいては、保健指導の効果に着目した「アウトカム評価の導入」がもっとも大きな変更点ですが、「ICTの活用」も重要なテーマとして検討されてきました。ICTの活用は、勤務形態や立地の制約を緩和できることによる実施率の向上やアプリを活用した継続的な指導の実施が期待できる反面、対象者や指導者のICTリテラシーやICT環境の整備とセキュリティ対策といった課題も挙げられています。私たちシステムベンダーはソフトウェアの提供とあわせて、それを使う人が安全に、かつ、効果的に利用できるよう支援していくことも重要な役割ではないでしょうか。

1 https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-hoken_129197_00001.html

2 https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-kenkou_00001.html

3 https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-hoken_23425.html

運営状況報告

2023年度 第4回運営会議議事録

2023年度 第4回運営会議議事録

＜日時＞：2023年7月18日（火）15:00～16:41

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

- ・デジタル庁「基幹業務システムの統一・標準化推進のための事業者協議会」へのオブザーバ推薦の件

7月12日電子投票において原案通り、保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏を本協議会へオブザーバ派遣することについて承認されたことが報告された。

2. 対外活動申請

- ・厚生労働省「労災レセプトのオンライン化に向けた普及促進事業」への委員派遣
医事コンピュータ部会 事務局部長 前田利勝氏、戦略企画部 部長 並川寛和氏を本事業へ委員派遣することについて承認した。
- ・ACTION1対応WGのメンバーの追加について
ACTION1対応WGメンバーリスト内、特別選任の追加メンバー8名を戦略企画部の下部組織であるACTION1対応WG メンバーとして選任することについて承認した。
- ・厚生労働省「AIを活用したケアプラン作成支援に係るケアプランデータの利活用に関する調査研究」への委員派遣について
医事コンピュータ部会 介護システム委員会 副委員長 田邊純氏を本調査研究に委員派遣することについて承認した。
- ・臨床検査項目標準マスター運用協議会への委員派遣
医療システム部会 検査システム委員会 委員長 福重二三男氏、臨床検査システム専門委員会 専門委員長 打保昭典氏を本協議会へ委員派遣することについて承認した。
- ・第87回HL7セミナーでの講演
医療システム部会 相互運用性委員会 次世代データ交換技術WG リーダ 宮川力氏を本セミナーへ講演者派遣することについて承認した。
- ・厚生労働行政推進調査事業費補助金「透析情報の標準規格開発並びに透析診療施設間の連携を支援する標準化に関する研究」における「透析情報標準規格（FHIR記述仕様）」の校閲
医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏が本件対応することについて承認した。
- ・国民健康保険中央会「広域連合標準システム研究会」へのオブザーバ推薦の件
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 後期高齢WG リーダ 岩田孝一氏、同委員会 副委員長 川崎英樹氏、同WG 委員 山田幹太氏を本研究会にオブザーバ派遣することについて承認した。

3. 第43回医療情報学連合大会におけるコンgresバッグへのJAHISロゴ広告掲載
JAHISロゴ広告掲載（2口、例年通り）について承認した。

2023年度 第5回運営会議議事録

＜日時＞：2023年8月22日（火）15:00～17:14

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 対外活動申請

- ・第43回医療情報学連合大会産官学セッションの共同座長
戦略企画部 部長 並川寛和氏が第43回医療情報学連合大会産官学セッション「みんなでつくるセキュリティの医療現場改革に向けて～情報共有体制の重要性～」において、共同座長をつとめることについて承認した。
- ・ACTION1対応WGのメンバーの追加について
ACTION1対応WGメンバーリスト内、特別選任の追加メンバー1名を戦略企画部の下部組織であるACTION1対応WGメンバーとして選任することについて承認した。
- ・令和5年度 厚生労働科学研究の検討会への委員派遣の件「医療現場における医療AIの導入状況の把握、及び導入に向けた課題の解決策の検討のための研究」
戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林俊夫氏、副室長 新垣淑仁氏の2名を本検討会に委員派遣することについて承認した。
- ・ACTION2 対応WG のメンバー追加・変更について
ACTION2対応WGメンバーリスト内、特別選任の追加メンバー3名を戦略企画部の下部組織であるACTION2対応WG メンバーとして選任することについて承認した。
- ・第21回日本デジタルパソロジー・AI研究会 定時総会での講演
電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 委員 近藤恵美氏が本件において、「JAHIS 医療情報システムの患者安全ガイド（病理編）Ver.1.0」の内容を紹介することについて承認した。
- ・第43回医療情報学連合大会 JAHIS/日本病院薬剤師会共同企画「電子処方箋をめぐる諸課題は解決したか ―これから運用を始めるために―」での共同座長
医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏が本件対応することについて承認した。

2023年度 第6回運営会議議事録

＜日時＞：2023年9月19日（火）15:00～17:18

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 対外活動申請

- ・(株)じほう 出版誌『調剤と情報』対談企画 JAHIS メンバー派遣の件
戦略企画部 部長 並川寛和氏、運営幹事 竹中裕三氏、事業企画推進室 室長 小林俊夫氏を本件対応に派遣することについて承認した。
- ・医療情報学連合大会共催 三菱電機展示ルームへの講師派遣の件
戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林俊夫氏が本件において「JAHISにおける医療情報化に対する取り組みと最新動向」というテーマで講師を行うことについて承認した。

- ・第43回医療情報学連合大会におけるパネルディスカッションへの講師派遣の件
戦略企画部 事業企画推進室副室長 新垣淑仁氏が本件において、「電子処方箋とHPKI（案）」という演題での講演とパネルディスカッションに参加することについて承認した。
 - ・第43回医療情報学連合大会 HELICS チュートリアル講師派遣の件
標準化推進部会 国内標準化委員会 委員長 田中利夫氏を本件に講師派遣することについて承認した。
 - ・「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」改定検討会への委員派遣
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸氏を本検討会に委員派遣することについて承認した。
 - ・「ヘルスケアプロセス管理モデルの策定と国際標準提案」国際標準開発WG への委員派遣
医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏を本WGに委員派遣することについて承認した。
2. HELICS 協議会副会長受諾の件
同協議会へJAHISより理事派遣している光城元博氏が副会長を受託することについて、背景等の説明がされ承認した。

2023年度 第7回運営会議議事録

<日時>：2023年10月17日（火）15:00～17:18

<場所>：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

- ・経済産業省／医療情報システムの契約のあり方等に関する有識者委員会への委員派遣
9月29日電子投票において、医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸氏を「医療情報システムの契約のあり方等に関する有識者委員会（仮称）」に委員派遣することについて承認されたことが報告された。
- ・健診等情報利活用ワーキンググループ民間利活用作業班への委員参加の件
10月11日電子投票において原案通り、保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 鹿妻洋之氏を本作業班に委員派遣することについて承認されたことが報告された。

2. 戦略企画部特別委員委嘱承認願（GHS）

GHS対応のため、岩井俊介氏を戦略企画部 特別委員に委嘱することについて承認した。

3. 役職連動表更新の件

役職連動表について、ヘルスソフトウェア対応委員会の解散、森本健一氏の運営幹事（医事コンピュータ部会担当）退任および、岩井俊介氏の退職に伴う変更点について確認し、承認した。

4. 対外活動申請

- ・令和5年度厚生労働省老健事業「データ連携を活用する事業所の業務改善を通じての生産性向上についての調査・研究」への委員派遣について
医事コンピュータ部会 介護システム委員会 副委員長 石川竜太氏を本件に委員派遣することについて承認した。

- ・介護情報の安全管理に関する調査研究事業検討委員会への委員派遣
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸氏を本検討会に委員派遣することについて承認した。
- ・令和5年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「入・退院時情報連携標準仕様の階層化に向けた調査研究事業」検討委員会
保健福祉システム部会 地域医療システム委員会 医療介護連携WG リーダ 光城元博氏を本委員会に委員派遣することについて承認した。

2023年度 第8回運営会議議事録

＜日時＞：2023年11月21日（火）15:00～16:48

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 対外活動申請

- ・令和5年度好生館シンポジウムにおける講演依頼
医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田靖士氏が本シンポジウムにおいて、「医療DX 令和ビジョン2030がもたらす医療提供体制」のテーマについてベンダーの視点で講演対応することについて承認した。
- ・日本医療情報学会 医療情報技師育成部会 生涯研修セミナー講師派遣の件
保健福祉システム部会 地域医療システム委員会 医療介護連携WG リーダ 光城元博氏が本セミナーにおいて、医療介護情報連携ICTの利活用と標準化に関するJAHISの取り組みや国策を解説する講演対応することについて承認した。

2023年度 第9回運営会議議事録

＜日時＞：2023年12月19日（火）15:00～17:02

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 「名古屋医療情報学プログラム 後援名義」使用許諾の件

本プログラム内容を確認し、後援名義使用許諾することについて承認した。

2. 対外活動申請

- ・臨床検査項目標準マスター運用協議会への委員派遣
医療システム部会 臨床検査システム専門委員会 委員 川田剛氏を本検討会に委員派遣することについて承認した。

委員派遣ならびに協賛・後援 (2023年7月～2024年12月)

【委員派遣・研究会等】

(承認番号)

1. デジタル庁

(23-07-001)

「基幹業務システムの統一・標準化推進のための事業者協議会」へのオブザーバ推薦

2023年7月12日～2024年3月31日

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本 章彦

2. エーベックスインターナショナル株式会社

(23-07-002)

厚生労働省(受託事業)

労災レセプトのオンライン化に向けた普及促進事業における普及促進活動検証委員会への委員派遣について

2023年7月18日～2024年3月31日

医事コンピュータ部会 事務局部長 前田 利勝

戦略企画部 部長 並川 寛和

3. 株式会社国際社会経済研究所

(23-07-003)

厚生労働省(受託事業)

「AIを活用したケアプラン作成支援に係るケアプランデータの利活用に関する 調査研究」において開催する実証研究委員会への委員派遣について

2023年7月18日～2024年3月31日

医事コンピュータ部会 介護システム委員会 副委員長 田邊 純

4. 臨床検査項目表標準マスター運用協議会

(23-07-004) (23-12-001)

委員

2023年7月18日～期限なし

臨床検査システム専門委員会 専門委員長 打保 昭典

副専門委員長 福重 二三男

2023年12月19日～期限なし

臨床検査システム専門委員会 委員 川田 剛

5. 一般財団法人 医療データ活用基盤整備機構

(23-07-006)

厚生労働行政推進調査事業費補助金「透析情報の標準各開発並びに透析診療施設間の連携支援する標準化に関する研究」における「透析情報標準規格(FHIR記述仕様)」の校閲

2023年7月18日～2024年3月31日

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦

6. 公益社団法人国民健康保険中央会 (23-07-007)
「広域連合標準システム研究会」へのオブザーバ推薦

2023年7月18日～会の終了するまで

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 副委員長 川崎 英樹
後期高齢WG リーダ 岩田 孝一
同WG 委員 山田 幹太

7. 東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター (23-08-002)
令和5年度 厚生労働科学研究の検討会 委員

2023年9月～2024年6月

戦略企画部 戦略企画推進室 室長 小林 俊夫
同室 副室長 新垣 淑仁

8. エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 (23-09-005)
「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業における安全管理ガイドライン」
改定検討会への委員派遣

2023年9月19日～2024年3月31日

医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

9. 一般財団法人 医療データ活用基盤整備機構 (23-09-006)
(令和5年度厚生労働科学研究 地域医療基盤開発推進研究事業)
「ヘルスケアプロセス管理に関する国際標準化と個別化Learning Health Systemアプリケーション
の開発研究」
研究分担課題「ヘルスケアプロセス管理モデルの策定と国際標準提案」国際標準開発WG 委員

2023年9月19日～2024年3月31日

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦

10. 経済産業省 (23-10-001)
「医療情報システムの契約のあり方等に関する有識者委員会(仮称)」への委員派遣

2023年9月29日～2024年3月31日

医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

11. エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 (23-10-002)
健診等情報利活用ワーキンググループ民間利活用作業班
委員(経産省、厚労省、総務省の共管会議体)

2023年10月17日～2024年3月31日

保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 鹿妻 洋之

12. 株式会社三菱総合研究所 (23-10-003)

厚生労働省(受託事業)

令和5年度 老人保健事業推進費補助金(老人保健健康増進等事業分)

「データ連携を活用する事業所の業務改善を通じての生産性向上についての調査・研究」において

開催する検討委員会 委員

2023年10月17日～2024年3月29日

医事コンピュータ部会 介護システム委員会 副委員長 石川 竜太

13. 株式会社三菱総合研究所 (23-10-004)

介護情報の安全管理に関する調査研究事業検討委員会 委員

2023年10月17日～2024年3月29日

医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

14. 株式会社三菱総合研究所 (23-10-005)

令和5年度 厚生労働省老人保健健康増進等事業

「入・退院時情報連携標準仕様の階層化に向けた調査研究事業」検討委員会 委員

2023年10月17日～2024年3月31日

保健福祉システム部会 地域医療システム委員会 医療介護連携 リーダ 光城 元博

【委員派遣・研究会等】

(承認番号)

1. 第87回HL7セミナーでの講演

(23-07-005)

2023年11月22日

医療システム部会 相互運用性委員会 次世代データ交換技術WG リーダ 宮川 力

2. 第43回医療情報学連合大会

(23-08-001)

産官学セッション

共同座長

2023年11月22日～25日(いずれか1日)

戦略企画部 部長 並川 寛和

3. 第21回日本デジタルパソロジー・AI研究会

(23-08-003)

定時総会での講演

2023年8月24日～26日(いずれか1日)

医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 委員 近藤 恵美

4. 第43回医療情報学連合大会 (23-08-004)
JAHIS／日本病院薬剤師会協同企画「電子処方箋をめぐる諸課題は解決したか—これから運用を始めるために—」
共同座長
2023年11月22日～25日(いずれか1日)
医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦
5. 株式会社じほう (23-09-001)
出版誌「調剤と情報」対談企画 JAHISメンバー
2023年9月～2023年10月
戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林 俊夫
戦略企画部 部長 並川 寛和
医事コンピュータ部会 運営幹事 竹中 裕三
6. 第43回医療情報学連合大会 (23-09-002)
三菱電機 講演
2023年11月24日
戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林 俊夫
7. 第43回医療情報学連合大会 (23-09-003)
パネルディスカッション講師
2023年11月24日
戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣 淑仁
8. 第43回医療情報学連合大会 (23-09-004)
HELICSチュートリアル講師
2023年11月22日
標準化推進部会 国内標準化委員会 委員長 田中 利夫
9. 佐賀県医療センター好生館 (23-11-001)
令和5年度度好生館シンポジウムにおける講演
2024年2月7日
医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田 靖士
10. 日本医療情報学会 企画研修委員会 (23-11-002)
医療情報技師育成部会 生涯研修セミナー 講演
2024年1月28日
保健福祉システム部会 地域医療システム委員会 医療介護連携WG リーダ 光城 元博
-

年度末に向けて、活動していない会員アカウントの削除をお願いします

毎年この時期にお願いしておりますが、ご退職やご異動などで既に活動をしていない会員のアカウントの削除をお願いいたします。

知る必要のない方にJAHISの情報を提供することは、その業務の生産性を下げるばかりではなく、会員の資格と権利の価値をも下げ、JAHISのブランドイメージを落とすことになります。

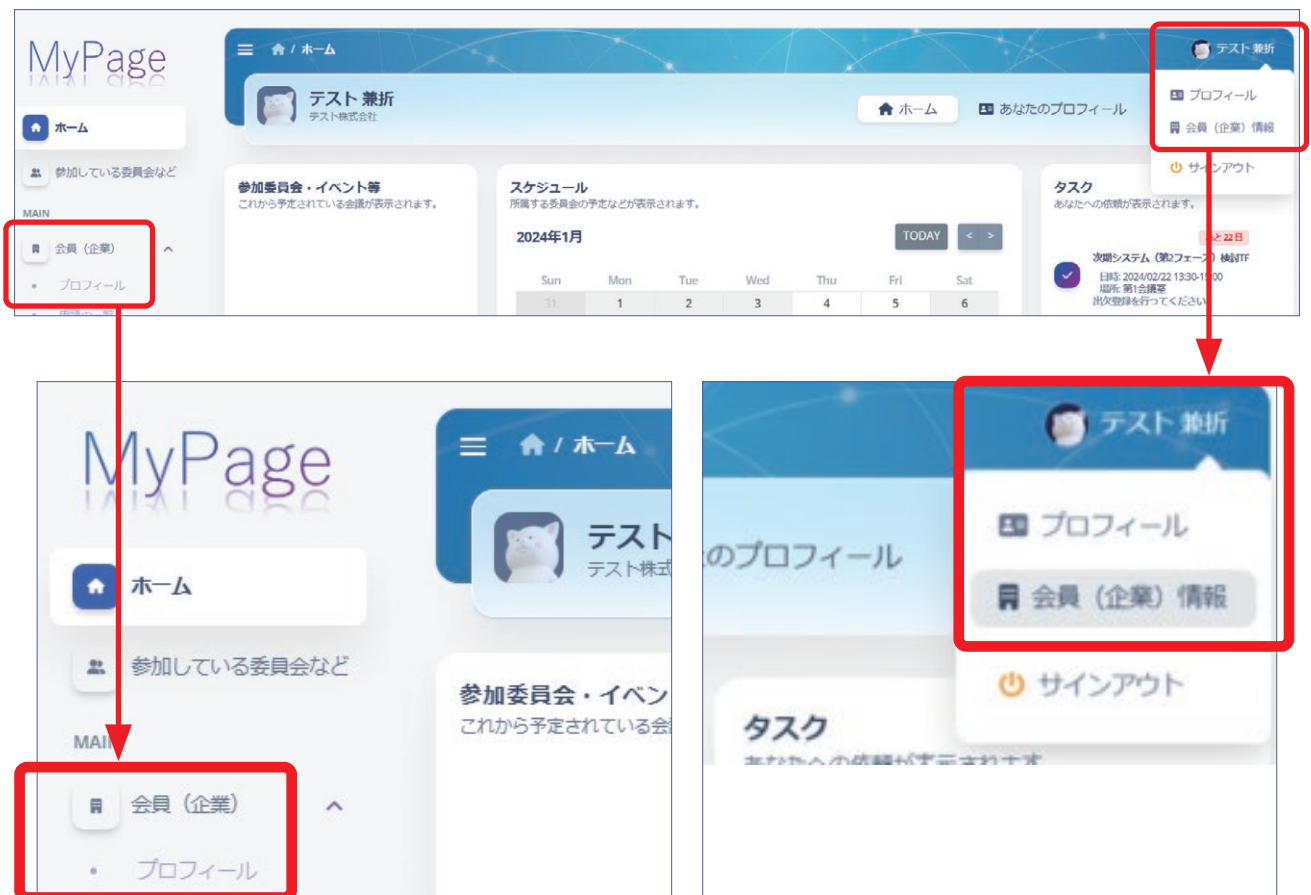
会員ご自身での削除ができない場合には、会員窓口が代わって処理できますので、会員専用サイトの会員窓口または代表によるMyPageから該当アカウントの削除をお願いいたします。

アカウントの削除の方法は、次のとおりです。

<JAHIS登録メンバーのアカウント削除方法>

My Page内「会員（企業）→プロフィール」ページへ進みます。下記どちらかでも進めます

- 1) MAINメニュー→会員（企業）→プロフィール
- 2) 右上のご自分のお名前→出てくる吹き出し内にある「会員（企業）情報」



「会員（企業）プロフィール」ページ

「所属メンバー」からアカウント削除に該当するメンバーを選択します



アカウント削除に該当するメンバーの画面に遷移します

〇〇〇〇（メンバー名）のプロフィール」の右上にある3つの丸をクリックします



「アカウント削除を削除する（赤字）」が表示されますので、そちらをクリックしてください



「アカウントを削除しますか？」というメッセージが表示されます
削除の場合「削除する」をクリックしてください
これでアカウント削除完了です



新年度を迎えるにあたって、以下の申請については期日までのご対応をお願いします

- (1) 会員資格のラックアップ：2月末日まで
- (2) 会員資格のランクダウン：同上
- (3) 退会申請：同上

期日を過ぎた申請は、その処理・対応がご希望に沿えない場合もございますので、ご注意ください。

2024年度の重要行事の日程のお知らせ

- ・第1回定例理事会：5月20日（月）10：00～11：30 東京新橋 JAHIS事務所
- ・第14期定時社員総会：6月11日（火）10：45～ 東京大手町 経団連会館
- ・第2回定例理事会：別途のご案内

新規会員紹介

会誌第71号（2023年8月発行）掲載以降に新たに入会された会員各社の皆様から、会社の業務概要やJAHISへの参加目的、活動する上でのJAHISに望むことなどについて、メッセージをいただきましたので、入会日順に掲載します。

紹介項目	◆ 会社名
	◆ 郵便番号、所在地
	◆ 電話番号
	◆ ホームページURL
	◆ 会員連絡窓口
	◆ 会社紹介

Wizards株式会社（2023年7月1日入会）

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2丁目23-1 天翔秋葉原万世橋ビル703

<https://www.wizards.co.jp/>

代表取締役 橋本 利一

私たち「Wizards」は、Microsoft Azureを活用した医療業界への革新を目指すスタートアップ企業です。

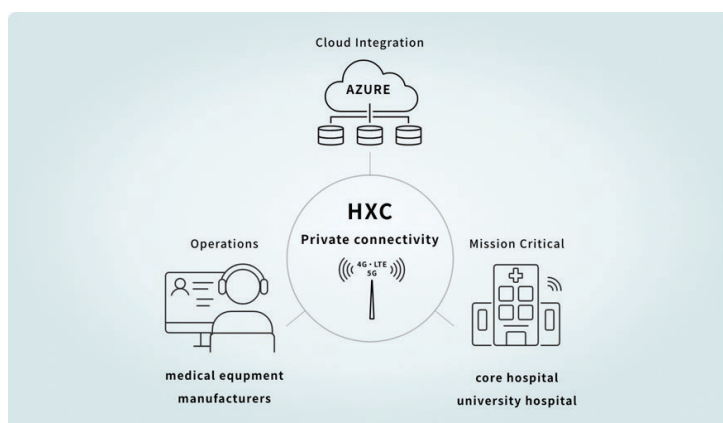
私たちの目的は、単に技術を導入するだけでなく、Microsoft Azureを利用して医療継続のアイデアやデジタル化、医療業界ガイドラインへの準拠を推進し、医療ビジネスの競争力を向上させることです。

私たちのコンセプトは、「自然とインフラが改善される」です。

弊社が提供する「HXC」サービスは、200以上の中核病院で採用されており、Cloud IntegratorとしてMicrosoft Azureを基盤としたミッションクリティカルな業務プロセス最適化サービスです。

このサービスは、病院とサポート管理拠点を高セキュリティで接続する総合インフラサービスとして機能し、医療現場でのITシステムの重要性を高めます。Microsoft Azureの活用により、高いセキュリティ接続と運用の可視化を実現し、セキュアな高速通信と運用の可視化を通じて、ミッションクリティカルなオペレーションを支えています。

私たちは、絶えず変化する社会環境に適応し、Microsoft Azureの力を最大限に引き出すことで、JAHISと医療業界の未来に貢献していきます。



株式会社オプテージ (2023年10月1日入会)

〒540-8622 大阪府大阪市中央区城見2丁目1番5号 オプテージビル

TEL: 06-7501-8615

<https://optage.co.jp/>

医療営業部 マネージャー 渡邊 真一

株式会社オプテージ（関西電力100%出資）は、1988年に光ファイバー賃貸事業会社の関西通信設備サービス株式会社を母体として始まり、2000年に旧社名でもある株式会社ケイ・オプティコムに社名変更。同年にケーブルテレビ事業を手がける株式会社関西ケーブルサービスと合併し、PHS事業会社であった株式会社アステル関西の営業を譲り受け、関西一円に広がる光ファイバー網を活用した個人向けの通信サービスを中心に事業を展開しております。

2003年には、わが国初の第三セクター方式による通信専門会社として、法人向けサービスを提供してまいりました大阪メディアポート株式会社との合併の後、2019年4月に関西電力株式会社および情報通信グループ会社の組織再編によって、関電システムソリューションズ株式会社が保有する情報通信インフラや企業・自治体向けの情報システム開発機能を移管し、新生の株式会社オプテージが誕生しております。

医療営業部では、「電子カルテを主に病院情報システムの導入や保守、コンサルティング業務、院内ネットワーク構築、ヘルプデスク業務、自社の通信回線やデータセンター（クラウドサービス）の提供」など病院さまの情報通信分野をワンストップでご支援させて頂いております。

この度はご入会をさせて頂きまして誠にありがとうございました。最新の業界動向などを共有させて頂き、また貴会発展のため微力ながら寄与出来ますように努めて参ります。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

ヨヨーダイネ株式会社 (2023年12月1日入会)

〒153-0064 東京都目黒区下目黒1-5-21 目黒DKウエスト302

TEL: 03-5437-0601

<https://yoyodyne.jp>

代表取締役 五十嵐 顕寿

弊社は耳鼻咽喉科クリニックを中心に画像ファイリングシステムを提供している会社です。

ソフトウェアの開発は自社にて行っております。多様な検査機器と連携をし、データを瞬時に患者様ごとに表示する事を得意としているシステムです。また耳鼻咽喉科特有の手技やニーズに対応できるよう改良を加えたソフトを売りにしております。

このノウハウを生かし今後は他科への進出も目指しております。これからも医療分野において現場や患者様へ貢献していきたいと考えております。

就任のご挨拶

事務局 保健福祉システム部長

まるやま ひろゆき
丸山 裕之



こんにちは。2023年11月からJAHIS保健福祉システム部会の事務局部長を拝命しました丸山です。前任の岸本部長からの引継ぎに伴い、8月からJAHIS事務所に通っています。事務局の先輩の方々には、赴任時がコロナ禍で自宅待機を余儀なくされた一方で、リモートワーク環境も整備されておらず、どのように業務をしていったらよいか分からなくて、とても不安だったという話をお聞きしました。それに比べて自分は自宅でも事務所でも当たり前のように業務や引継ぎをすることができ、環境を整えて頂きました関係各位に感謝申し上げます。

私は日立製作所に入社し、半導体チップの開発センタに配属されました。自社メインフレームに搭載するプロセッサや、かつて日本半導体の主力製品であったDRAMの開発を皮切りに、半導体プロセス開発・生産性向上の業務に従事してきました。その後弊社が半導体事業をスピンアウトした際、システムエンジニアへ配置転換になり、新規サービス事業の企画・立ち上げや保険者業務システムに携わってまいりました。従いまして、医療情報関連の業務は多少触れた程度で、JAHISへの異動のお話があった時も実はJAHISのことを知らず、上司に聞き返した程です。こんな有様でしたがこちらに来てJAHISが医療情報関連の様々な分野のエンジニアが集まって、知識や経験を交流し、社会に貢献している素晴らしい団体であると実感しました。JAHIS関係各位、特に事務局や保健福祉システム部会の皆様にご迷惑がかからないよう努めてまいります。

趣味はウォーキングと歴史です。昨年の夏は酷暑のため無理でしたが、涼しくなったらは事務所に出勤した際は新宿－新橋間をなるべく歩くようにしています。特に朝は好きな音楽を聴きながら、ひと気の少ない新宿歌舞伎町を出発して、半蔵門－桜田門－日比谷公園にかけての内堀通りや、四ツ谷駅から新橋にかけての外堀通りを歩きながら、かつての江戸城の構造に思いを巡らし、神宮外苑、迎賓館、国会議事堂、少し遠回りして東京タワー等、日本近現代史を物語る施設を直接目にすることができ、モチベーションアップの時間になっています。古代史も好きです。特にローマや中国の歴史には大変興味があります。2020年2月に念願の古代ローマ遺跡とイタリア観光名所巡りができました。前半は天候にも恵まれ気持ちよく回ることができました。ポンペイ遺跡の写真は一見すると雲一つない青空の下で長閑な風景に見えますが、後ろのベスビオ火山の火砕流が一瞬に街をのみこんだことで、後世にその姿を伝えているかと思うと、自然は恵みと脅威の両面を併せ持つことを忘れてはならないと改めて感じさせられました。



ポンペイ遺跡 後方の山はベスビオ山

旅の後半は新型コロナウイルス感染者がイタリア北部で多数発生し、少なからず影響を受けました。楽しみにしていましたベネチアのカーニバルが私の到着翌日に中止になったことを知らずに街へノコノコと出かけ、前日の賑わいと打って変わった街の静けさに戸惑いと寂しさを感じたことが記憶に鮮明に残っています。下の写真で感じていただけますでしょうか？



ベネチアの運河を背にして

新型コロナの影響と言えばゴルフもです。コロナ禍以降はしていません。アイアンを買い替えて直ぐにコロナ禍になりましたので、もったいない気持ちはあるのですが、自宅から徒歩で行けるゴルフ練習場が閉鎖になったため、再開しようか悩んでいます。あと趣味として定着していませんが、頂いたオオクワガタの繁殖に昨年本格的に取り組みましたら、約50匹の幼虫が孵りました。今はその成長を楽しんでいます、成虫に羽化した後の飼育はかなりしんどいと思っています。養子先を絶賛募集中です。

最後になりましたが、JAHIS事務局として、少しでも貢献できるよう精一杯頑張ります。会員の皆様が有意義な活動をできるようサポートすることが事務局の役割だと考えております。そのために日々のコミュニケーションや情報共有を大切に、会員の皆様のご要望やご意見を聞き、迅速かつ丁寧に対応できるように努めたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

事務局 医療システム部長

お お は し た だ し
大橋 正



2023年11月にJAHIS医療システム部会の事務局部長に着任いたしました富士通Japanの大橋と申します。着任からまだ2か月余ということもあり、JAHISの業務にも不慣れなこともあり、会員各社の皆様にご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。

私の自己紹介を簡単にさせていただきます。富士通株式会社ではシステムエンジニアとして2007年頃に自治体の保健福祉業務関連を担当しておりました。JAHISとの最初の関わりもこの頃に特定健診関連のWGに参加したことでした。その後、医療事業関連部門に異動し、介護事業者向けシステムの企画・拡販を担当、2021年の富士通Japanの発足と共に同社に出向となりました。

出身は神奈川県横浜市になりますが、生まれてから今日に至るまで、横浜市に住み続けている根っからの浜っ子です。幕張に勤務していた際にも転勤せずに横浜から通いつづけたという筋金入りです。（ただし、「横浜」といっても残念ながら内陸の方なので自宅の周囲には何もありません。）

事務局部長に着任しての抱負としましては、前任者の思いを引き継いで参りますが、医療システム部会の委員の皆様が円滑に活動を行えるようにする為にはどうすべきかを日々考え、工夫して参ります。必要であれば、従来の運用に囚われず、新たな提案をさせていただきます。私の仕事スタイルは「石橋を叩いても渡らない」、むしろ、叩きすぎて壊すくらいの慎重派ですので、ご理解いただけると幸いです。

医療システム部会は、電子カルテ委員会、検査システム委員会、部門システム委員会、セキュリティ委員会、相互運用性委員会と5つの委員会を軸として、さらに配下に複数の専門委員会やWGを

連ねるJAHIS内でも最大と言える組織ですので、まだ顔と名前が一致しない方も複数いらっしゃいますが、徐々に慣れていきますのでしばらくは失礼があることをご容赦ください。なお、お酒の方は下戸ですので、お手柔らかにお願いいたします。

今後とも、医療システム部会の円滑な運用推進の為、微力ながらご支援をさせていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

編集後記

このたびの石川県能登地方を震源とする令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますと共に被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

余震が続いており予断を許さない状況の中、被災者の救済と被災地の復興支援のために尽力されている方々に深く敬意を表しますと共に必要なライフラインが一刻も早く確保され、皆様が少しでも安心した生活を取り戻されますようお祈り申し上げます。

執筆者の皆様におかれましては、年末年始のご多忙の中ご寄稿いただきまして、誠にありがとうございました。お蔭様で会誌72号も発刊のめどがたってまいりました。

出向時より同一部会におり会誌の原稿の収集、編集、そして過去の会誌を読み返すことによって、JAHIS各部会の活動の理解が深まり、関係各位の並々ならぬ業界への貢献と熱意が伝わり、業界ならびに会員各社の発展・成長に事務局スタッフ側の自分としても「寄与しなければ」と思いを強くしているところです。

世界ではロシアによるウクライナ侵攻の長期化、イスラエル・パレスチナ問題、国内では生活用品の相次ぐ値上げ、未婚率の上昇による少子化の加速など明るい話題が少ない現況ですが、コロナも5類へと移行し年始の実業団駅伝・箱根駅伝・各種大学高校の全国大会など有観客で実施されコロナ前の平常時に戻った感もテレビを通じ感じました。

JAHISは健康・医療・介護・福祉の分野において、関係各社、団体の協力を得ながら、データ循環型社会に必要な様々な医療情報の標準化を国内外に推進・普及させることができる団体です。そのためには、医療サービスを提供する側のプロセスの見直しにまで踏み込んだ継続的な活動と高い倫理観が必要です。また医療サービス提供者側と国民に、データ循環型社会の受益者としての不安（コスト、セキュリティ、過去データがどこまで利用できるのかなど）をどう払拭していくのか、この解決策を具体的に示すことが求められているかと思います。昨年はマイナンバーカードと健康保険証が一体化する法案の成立や令和6年診療報酬改定では実施月が4月から6月に変更になるなど我々にとっても大きな変化の起点となる年になりました。今年は医療DXの更なる推進によりどのような影響が出てくるのか？も注視しながら会員の皆様が滞りなく推進できるよう支援していきたいと思います。

本誌は半期ごとのJAHISの活動概要を皆様にお知らせするという重要な目的があります。しかしながら発行のサイクルの関係で、必ずしも旬の話題をタイムリーに記事にできないこともあるかもしれません。それでも寄稿者の熱い思いと読者に今度はどんな記事が載っているんだ、と期待していただくような特集を関係者のご協力を得て今後も継続してお届けできるようにしたいと考えております。

T.M記

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会 会誌 第72号

令和6年2月9日 発行

発行人：下山 赤城

編集委員会：編集人 寺崎 貴宏
委員 大橋 正
委員 前田 利勝
委員 丸山 裕之
委員 柘植 章彦
委員 真野 誠
委員 米納 達二
委員 吉野 裕夫

発行：一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
〒105-0004 東京都港区新橋二丁目5番5号
新橋2丁目MTビル5階
電話 03-3506-8010
FAX 03-3506-8070
URL <https://www.jahis.jp>

制作：株式会社イブアソシエイツ

